

平成25年度 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」

コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト

**COMMUNITY CAMPUS SAGA
ACTIVATION PROJECT**



国立大学法人 佐賀大学

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト



プロジェクトA:吉野ヶ里町での留学生による座禅体験
プロジェクトB:唐津市相知町葦野の棚田での演習
プロジェクトB:鹿島市新籠海岸での野鳥観察・調査
プロジェクトC:佐賀大学での「健康教室」開催風景
プロジェクトD:鹿島市の東亜工機工場見学

プロジェクトE:唐津市の離島診療所での実習風景
プロジェクトF:佐賀市中心市街地のまちなか3号「さがよかこの家」の現地視察
プロジェクトG:アグリ創生教育研究センターでの牛の心拍数変化の計測
プロジェクトG:アグリ創生教育研究センタービニールハウス内で歩行速度上昇に伴う心肺機能の変化を計測

ご挨拶

平成25年度に開始されました文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」は、大学改革実行プランにおける大学の機能強化、地域再生の核となる大学づくり「COC(Center of Community)構想」推進の一環と捉えることができます。今年度、本学と永原学園西九州大学が共同申請し採択された「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」は、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を実施することとしている両大学にとって、正に佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員が一体となって地域課題の解決に向けた実践的な教育・研究を実施するものであり、地域自治体等との緊密な連携等これまでの実績を基盤として、教育プログラムの継続的な改善・改革・充実を図り、実効性・発展性のあるプロジェクトに育つことを期待しています。

本プロジェクトの骨子や具体的内容および平成25年度の取り組み・成果等については、両大学の事業実施責任者が詳述されると思いますので、ここでは言及しませんが、本プロジェクトを推進することにより、両大学が佐賀の地における地（知）の拠点としての機能を強化し、「佐賀の大学」として地域社会に寄与できるよう発展し続ける必要があります。

両大学の全ての教職員と学生、地域の皆様のご理解・ご支援をお願い申し上げます。



佐賀大学理事・副学長

中島 晃



目次

Page

■ はじめに

03 ご挨拶

佐賀大学 理事・副学長 中島 晃

05 平成25年度年表

06 ご挨拶

地域との連携を強化して、「佐賀の大学」としての
ミッションを果たす

佐賀大学事業実施責任者 五十嵐勉

07 寄稿 大学と地域、大学間のニーズとシーズの還流

西九州大学事業実施責任者 井本浩之

08 連携自治体からのメッセージ

■ コミュニティ・キャンパス佐賀

アクティベーション・プロジェクトについて

12 プロジェクト概要

16 プロジェクトA～G紹介

42 学生の地域での活動拠点

■ シンポジウム・フォーラム等の記録

44 市長と語る会（佐賀市）

48 FD・SDフォーラム

■ 広報関係

52 新聞掲載記事

56 ホームページ・リーフレット・Facebookの紹介

58 資料

62 編集後記

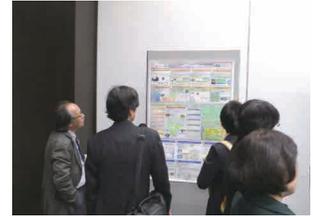
平成25年度 年表

● 2013年

- 10月11日 第1回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
- 10月25日 コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議準備会
- 11月8日 平成25年度地域再生人材創出拠点の形成シンポジウム
ポスターセッション参加
- 11月15日 第1回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 12月12日 第2回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会

● 2014年

- 1月27日 第2回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議
- 1月28日 市長と語る会 (佐賀市)
- 1月31日 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーションプロジェクト
FD・SDフォーラム
- 2月14日 第3回コミュニティ・キャンパス佐賀運営委員会
- 3月25日 第3回コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議



ポスターセッション



第1回運営委員会



第2回推進会議



市長と語る会



FD・SDフォーラム

ご挨拶

地域との連携を強化して、「佐賀の大学」としてのミッションを果たす



佐賀大学 事業実施責任者

五十嵐 勉

全学教育機構 教授

産学・地域連携機構地域連携部門 部門長

本学と永原学園西九州大学の共同申請による文部科学省「地(知)の拠点整備事業—コミュニティ・キャンパス佐賀アクション・プロジェクト」は、これまでの両大学における地域を志向した教育・研究・社会貢献の実績を基盤に、サービ斯拉ーニング(SL)・問題解決型学習(PBL)を重視した教育プログラムの改革・改善を踏まえて、地域課題の解決に向けた取り組みを実施するものです。佐賀県(含、佐賀経済研究会)、及び佐賀市・神埼市・小城市・唐津市・嬉野市・鹿島市・吉野ヶ里町の6市1町との連携によって、中心市街地・離島・中山間地域の活性化、地域コミュニティの再生、機能的食品の開発を含む地域産業の振興、保健・医療・福祉の向上、住民の健康増進、地方公共交通の改善、子どもの教育・子育て支援、環境保全などの課題解決に取り組んでいます(佐賀大学7事業・西九州大学5事業の計12事業:内、共同事業7)。

本学においては、全学教育機構と全学部が取り組むもので、校内-西九州大学-地域との連携を強化し、「佐賀の大学」としてのミッションを果たすべく取り組んでいる事業です。特に、教養教育の改革として平成26年度から開始するインターフェース科目(1プログラムは4科目8単位、2・3年次の選択履修)は、アクティブ・ラーニングを基本とする教育カリキュラムで、学外での調査・研究・活動を重視したcommunity-based learningを推進します。このような教養教育を通じた社会人基礎力の養成と、専門職業人としての実践力・専門性・企画力等を養成する学部専門教育と合わせて、地域で活躍する人材の教育を推進しています。

地域を志向する教育・研究の活性化が、大学全体として地(知)の拠点-Center of Community-としての機能を強化することであり、実効性と継続性のある取り組みが必要です。今年度は、教育カリキュラムの設計と試行的な実践を行いました。その評価と改善の仕組みを構築し、次年度以降の事業の深化に努めます。

本事業の企画・推進に際して、ご協力いただいた西九州大学・関係自治体、そして「場の教育」にご協力頂いた地域住民の方々に、お礼申し上げます。次年度以降も、学生教育と地域課題の解決に向けた取り組みを推進しますので、さらなるご支援と協力をお願いします。

寄稿

大学と地域、大学間の
ニーズとシーズの還流

「大学生の就業力育成支援事業」から「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」へ、そして佐賀大学との共同申請による平成25年度「地（知）の拠点整備事業」採択へ。西九州大学の地域貢献は発展期を迎えようとしています。

本学は平成23年度よりサービスラーニング（SL）として学生を学外へと送る試みを開始しました。「あすなろうプロジェクト」すなわち「あすなろう体験科目群」（1年次必修、2・3年次選択科目）の整備・運用です。当科目受講者は、参加者数、活動件数が年々増加し、平成25年度には延べ人数で3,300名程の活動者、活動件数400件を超えるに至りました。この試みは期せずして、「学生教育が地域貢献活動へと結実する」というCOC理念の一部を具現化することとなっていたのです。

そもそも本学があすなろうプロジェクトを計画した理由は、学外での様々な体験活動を通じて、現代の若者に不足しているといわれる汎用的能力を獲得させようというものでした。地域社会にも若者の力を活用したコミュニティの活性化や有意な人材の獲得など多様なニーズが存在します。学内外双方に存在するニーズを双方のシーズ・リソースを活用して相互に満たしあう関係の構築を目指したのがあすなろうプロジェクトの原点でした。

そして、佐賀大学と共同で、地（知）の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀・アクティベーション・プロジェクト」の実施を迎えることとなりました。このプロジェクトでは、あすなろうプロジェクトでは十分に実現できなかった、専門教育科目を活用したSLと課題解決型学習（PBL）の融合的实施を盛り込むことが可能となりました。本学は地域の様々な課題に対してレシプロカルな還流が起こるような取組を行いたいと考えています。地域の方々には、大学の教育・研究シーズを活用していただくと同時に、学生そして教職員を教育指導していただくよう、この場をお借りして切にお願いいたします。本取組の成果は、両大学に地域貢献の量的拡大のみならず、質的な深度をあたえると確信しています。

最後となりましたが、「佐賀大学」との共同申請事業であることの意義についても、ひとこと申し添えておきます。佐賀大学と本学とは機能別分化の視点からするとかなり異なった大学で、それぞれ得手・不得手があります。ニーズとシーズの還流は、大学と地域の間のみならず大学間連携にも不可欠な要素なのです。



西九州大学 事業実施責任者

井本 浩之学務部長・教授
地域連携センター・副センター長

連携自治体からのメッセージ

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト（通称：コミュニティ・キャンパス佐賀）は、1県6市1町と連携しています。この事業における、連携自治体の「期待」や「想い」を聞きました。



「地方の発展」と「教育の質の向上」に期待

佐賀県統括本部政策監グループ **中島 健二**

県の発展に必要な施策や、地方が抱える課題解決など、地方自治体が取り組むべき事項は山積しています。「コミュニティ・キャンパス佐賀」のプロジェクトテーマは、これらに直結するものです。

取り組みが、行政施策に直結するケースもあるでしょうし、そうでなくとも、課題を把握した学生自身に行動を起こさせることもあるかもしれません。何より、卒業後も役立つものになることは言うまでもありません。

「地方の発展」と「教育の質の向上」、その両方を満たすプログラムとなりうる「コミュニティ・キャンパス佐賀」。発展の可能性は限りありません。今後の展開に期待しているところです。



連携を強化し将来を担う人材育成を

佐賀市役所総合政策課企画係 **八島 直樹**

佐賀大学、西九州大学と佐賀市は、これまで学生と地域との交流を含めて、組織同士の連携を深めてまいりました。両大学のキャンパスが立地している本市は、「コミュニティ・キャンパス佐賀」において、これまでの連携事業を礎にしなが、新たなプロジェクトを含め連携を深めています。

「コミュニティ・キャンパス佐賀」の取り組みが、人口減少・少子高齢化の進行などに起因する様々な地域課題の解決につながっていくことや、地域での実践的な教育により本市の将来を担う人材が育成されることを期待しています。



2つの大学が地域再生や活性化の核に

神埼市役所総務企画部市長公室 **平山 幸二**

佐賀大学と西九州大学が合同で実施される、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトにより、両大学の本来それぞれの教育研究分野における蓄積された成果が、地元や地域、県下の課題解決及び活性化の実現に寄与することを期待します。

「地（知）の拠点」として、両大学が地元自治体はもとより市民団体や地場産業等との情報の共有や事業の連携により、課題解決や情報発信、事業の継続を行うことを通じて、地域の再生や活性化の核となり、ますます発展されることを祈念します。



各プロジェクト実施で地域活性化へ

唐津市役所企画財政部企画政策課（兼）
早稲田佐賀中学・高校交流推進室 **牛草 和人**

学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラムでは、神集島合宿研修所等を拠点とした学生活動により、斬新なアイデアと情熱で地域が活性化されることを期待しています。

離島・山間地域における保健医療とQOLの向上のための人材育成プロジェクトでは、交通手段等の理由により医療の面において不利な条件を抱える離島に、本プログラムが活力を与え、島民の笑顔に繋がるよう期待しています。

地域空間再生デザイン・プログラムでは、景観形成基準の設定等の演習に取組んで頂き、計画策定の参考にできるよう期待しています。

大学生のアイデアを商品開発やまちづくりに

嬉野市役所企画部企画企業誘致課 **山口 純一**

「コミュニティ・キャンパス佐賀」に関係させていただくチームの一員として、嬉野市は本事業に対して大変期待を寄せています。

特産物である、お茶を使った機能性食品の開発プロジェクトでは、実証実験等を含めた機能性の証明を付加価値とした、新たな特産品の展開に大きく期待しています。

また、新設される九州新幹線西九州ルート嬉野温泉駅周辺整備事業に際しては、温泉街との融和を目指した都市空間デザインや、多くのお客様を迎えるためのユニバーサルデザインの推進が鍵となり、若く有望な学生の皆さんのアイデアや情熱を、街づくりの柱とできることを大変楽しみに、心強く感じています。



課題解決に学生のオリジナリティを

鹿島市役所総務部企画財政課企画係 **木原 智典**

鹿島市は、東には有明海が広がり、西は多良岳山系に囲まれています。また、伝統的建造物群保存地区である肥前浜宿は通称「酒蔵通り」と呼ばれ、鹿島で醸される良質な酒は世界でも数々の賞を受賞するほどです。

当市では、この有明海の自然や伝統的な街並みなどの地域資源を活用し、自然環境問題や中心市街地問題、人口減少問題などの地域課題の解決、地域の活性化を模索しています。

平成25年度から始まった「コミュニティ・キャンパス佐賀」が、単なる大学の授業としてではなく、学生のオリジナリティを発揮した地域活性化、地域課題解決になるよう協働していければと考えています。



「現場に強い人材」育成と課題解決の新風を

小城市役所総務部企画課 **熊谷 郁子**

佐賀県全体をキャンパスと見立て、佐賀大学と西九州大学が連携し学生が地域に入って授業を行うことで県内の自治体の課題解決に繋げるといこの事業。大学にとっては、学生が机上だけでなく現場である地域で現状を学び、地元・現場で活躍できる人材を育成するという意義を、自治体にとっては学生の発想やマンパワーを活用して地域課題解決の一助とするという意義を持ちます。これは産学官連携のさらに深化した形と考えます。

この事業で、地域課題を解決できる「現場に強い人材」が育成されると同時に、自治体の課題解決方法等に新しい展開が生まれることを期待しております。



学生の自主的活動で地域課題解決へ

吉野ヶ里町役場企画課企画係 **田中 大輔**

今回、両大学と連携させて頂く本事業は、本町における様々な課題解決及び活性化に大きく寄与する重要な事業であると関係者一同期待しております。

本町においては、地域活動の担い手不足によるコミュニティの衰退、特産品の開発等が課題となっており、両大学の新しい発想、本町の地域資源等を活かした提案を希望するところであります。

両大学におかれましては、本事業を通じて地域・人とのコミュニケーション能力、協調性を持った学生を育成して頂き、今後その学生たちが自主的に地域活動等に貢献して頂けるよう期待しています。



コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・ プロジェクトについて

プロジェクト概要	12~15
プロジェクトA	16~19
プロジェクトB	20~23
プロジェクトC	24~25
プロジェクトD	26~29
プロジェクトE	30~33
プロジェクトF	34~37
プロジェクトG	38~40

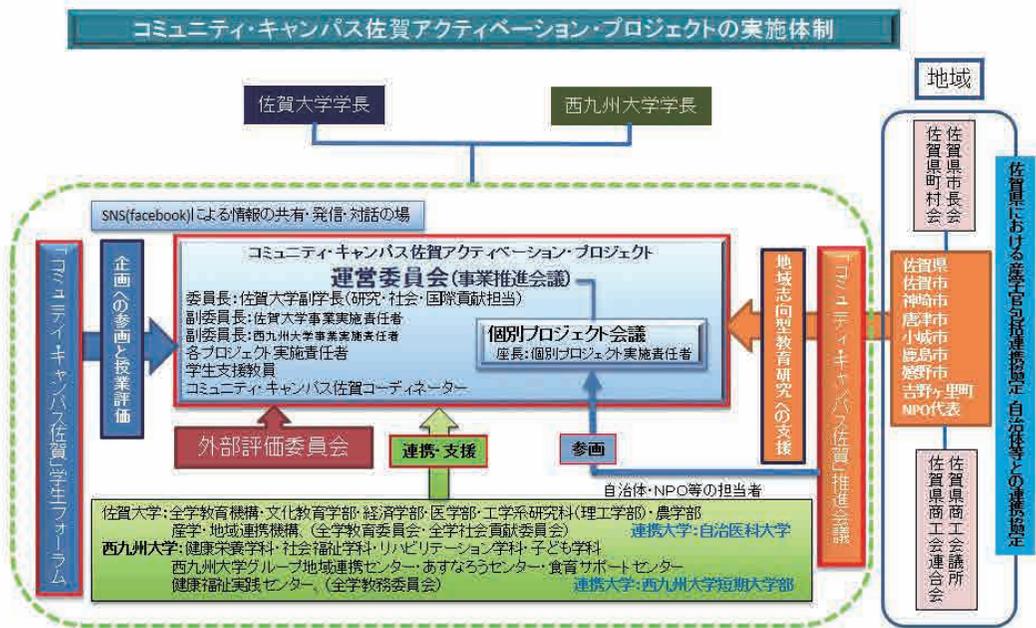
プロジェクト概要

コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクトとは

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地（佐賀県域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。

このプロジェクトは、佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町の1県6市1町と連携し、両大学とも地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的なプロジェクトとして推進します。

佐賀大学・西九州大学、及び地域連携による推進体制



第1回運営委員会開催風景



第2回推進会議開催風景

佐賀大学・西九州大学によるコミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト事業の一覧、及び連携自治体

コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトの一覧

全12事業

佐賀大学の取り組み

A 学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム

- 教養教育機構「インターフェース領域」
- 全学教育機構「インターフェース」
- 全学教育機構「インターフェース」(環境コース)
- 全学教育機構「インターフェース」(国際交流センター)
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 三浦 隆典教授

B 学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム

- 教養教育機構「インターフェース領域」
- 全学教育機構「インターフェース」(環境コース)

代表: 大庭 昌幸准教授

C 地域の高齢者および子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プログラム

- 実践力の養成
- 学部に特化した実践力育成プログラム

代表: 佐賀 隆一教授

D 地域との連携による地域経済政策に関する学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

- 実践力の養成
- 全学教育機構「インターフェース」(国際・包摂学コース)

代表: 藤田 昌典准教授

E 離島・山間地域における保健医療とQOLの向上のための人材育成プログラム

- 「へちま」保健医療人材の養成
- 医学部地域医療支援学講座
- 地域医療科学研究センター・社会医学部看護学国際学分野
- 医学部地域医療科学研究センター
- 佐賀大学・自治医科大学

代表: 内藤 隆典教授

F 地域空間再生デザインプログラム

- デザインクイーターの養成
- 工学部都市計画工学専攻
- 全学教育機構「インターフェース」(国際・包摂学コース)
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐藤 隆典教授

G アグリ産業の多様な活用したアグリ医療の推進と機能性食品の開発プログラム

- アグリ医療、セラミド含有化粧品開発
- 機能性食品の開発に向けた人材の育成
- 医学部アグリ・食生活科学研究センター
- 医学部地域医療科学研究センター
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐賀 隆一教授

佐賀大学・西九州大学連携プロジェクト (7事業)

連携自治体と教育研究プロジェクト (A~L) の関係

- 佐賀市: A, B, C, E, F, G, H, J, K, L
- 神埼市: H, I, K
- 小城市: D, F, I, J, K, L
- 唐津市: A, E, F
- 嬉野市: F, K
- 鹿島市: A, B, F
- 吉野ヶ里町: A, H, K
- 佐賀県: all (佐賀地域経済研究会: D)

鳥の資源調査委員会 (唐津市神島島公民館)

佐賀大学唐津キャンパス (農学部附属アグリ創生教育研究センター) 佐賀大学神島島合併併研所

農林調査 (吉野ヶ里町神島公民館)

西九州大学神島キャンパス

西九州大学小城市サテライト

佐賀県

- 佐賀地域経済研究会

有明海

佐賀大学本庄キャンパス、佐賀大学鹿島キャンパス、佐賀大学小城市サテライト、佐賀大学小城市サテライト (農学部附属アグリ創生教育研究センター)

高齢者を対象としたレクリエーション (アイスブレイク) 運動(佐賀県)

平瀬の生物調査 (鹿島市七浦の干瀬)

佐賀大学平瀬環境学習サテライト(むつこうろ)

西九州大学の取り組み

H 介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

- 介護実践型「認知症」実践の養成
- リハビリテーション学部
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐賀 隆典教授

I 保健・医療・福祉+子育て支援体制の充実プログラム

- 地域医療輸出力と実践力の育成
- 健康福祉学部
- リハビリテーション学部「子ども学部」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 林田 昌典教授

J 「歯がさわやか」活動を通じた安心生活づくり

- 中心市街地活性化のための企画・実践力の養成
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 健康福祉実践センター
- 歯学部
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐賀 隆典教授

K 学生参画による機能性食品の開発プロジェクト

- 実践力の養成
- 健康福祉学部・子ども学部
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐賀 隆典教授

L 地域住成と連携した交通UPプロジェクト

- 実践力の養成
- 健康福祉学部・子ども学部
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」
- 西九州大学グループ「地域連携センター」

代表: 佐賀 隆典教授

● 佐賀大学事業 ● 西九州大学事業 ● 連携大学

● 佐賀大学・西九州大学連携プロジェクト

佐賀大学における事業一覧

地域を志向する教育・研究・社会貢献のアクティベーション
—コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト—

地(知)の拠点整備事業

教養教育の改革 全学教育機構 インターフェース領域
* 2~3年次配当科目 各4科目(8単位)
* フィールドワーク、サーベラーニング
A: 学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム
B: 学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム

社会との接続教育 | **専門教育との接続** | **「オリター」課外活動**

学部専門教育の改革 1~4年次 専門科目群 (必修・選択)
文化教育学部: 健康・スポーツ学講座
C: 地域の高齢者および子どものヘルスプロモーション・プログラム
経済学部: 地域経済研究センター
D: 地域との連携による地域経済政策の立案プログラム
医学部: 地域医療支援学講座 (連携: 自治医科大学、農学部・全学教育機構)
E: 離島・山間地域における保健医療とQOL向上プログラム
理工学部: 都市工学科 (連携: 全学教育機構)
F: 地域空間再生デザイン・プログラム
農学部: アグリ創生教育研究センター (連携: 医学部)
G: アグリ医療の振興・機能性食品の開発プログラム

問題発見解決型アクティベーション・ラーニング

地域を志向する研究プロジェクト(研究所)
(学部・研究科における研究)
有明海総合研究
農業版MOI教育プログラム
地域環境コンテンツデザイン研究所
茶の文化と科学研究所
超セラミド研究所
地域防災技術研究所
...

地域課題の解決
中心市街地の活性化
地域コミュニティの再生
離島・中山間地域の活性化
地域産業の振興
地域医療・保健の向上
健康・福祉の向上
環境保全、.....

行政/市民

企画力・実践力を有する専門職業人の養成

人材

地域
佐賀県・佐賀市・神埼市・小城市・唐津市・嬉野市・鹿島市・吉野ヶ里町
NPO/CSO・地域コミュニティ組織、..
佐賀県における産官学包括連携協定事業(連携)

社会人基礎力の養成

プロジェクト

■各プロジェクトの紹介

佐賀大学の7つのプロジェクト

★マークは佐賀大学、西九州大学の連携によるプロジェクトです。

プロジェクト

A

学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム

(連携自治体) 佐賀市、唐津市、鹿島市、吉野ヶ里町
「中心市街地の活性化」や「離島・山間地域の活性化」「地域コミュニティの再生」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「地域・佐賀学コース」の「地域創成学プログラム」を基盤に、「文化と共生コース」、「生活と科学」コース、「短期留学生プログラム」との連携によって、地域の活性化を目指します。

代表：五十嵐勉 全学教育機構教授



プロジェクト

B

学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム

(連携自治体) 佐賀市、鹿島市
「地域資源の保全と活用」「有明海の環境保全と活用」を目的に、全学教育機構における教養教育改革の一環として行います。教養教育のインターフェース「環境コース」の「有明海学」「地域環境の保全と市民社会」プログラム、及び「文化と共生コース」の「映像・デジタル表現」において、主体的な環境学習プログラムを実施・構築します。

代表：郡山益実 全学教育機構准教授

プロジェクト

C

地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市、嬉野市、鹿島市
学生の実践力育成と、地域の発達障害児を含む子どもと中高齢者の健康増進に寄与することを目的に、文化教育学部健康スポーツ学講座による地域での運動指導等を行います。地域の子どもから高齢者までを対象にすることで、ヘルスプロモーション能力を底上げし、運動・福祉の側面から、地域の健康への取り組みを活性化します。

代表：井上伸一 文化教育学部教授

プロジェクト

D

地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元

(連携自治体) 佐賀県(佐賀地域経済研究会)、小城市
学生自身が、地域の経済問題を調査して課題を見つけ、対策の検討とまとめを行います。地域が抱える課題への対策は、佐賀県下の市部の地域経済政策の立案主体からなる「佐賀地域経済研究会」の協力を得ながら行い、その成果は大学の公開講座等で発表して地域に還元します。

代表：富田義典 経済学部教授

プロジェクト **E** 離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための人材育成プロジェクト

(連携自治体) 唐津市、佐賀市

地域医療実習、及び自治医科大学との合同夏期実習の教育実績を基盤として、全学教育機構や農学部プログラムとも連携して保健医療教育を実施。学生同士の交流や将来の人的ネットワークの形成、地域の文化や伝統に直に触れる機会を持つことによる地域貢献意欲の涵養等を行い、地域での保健医療充実のための人材を育成します。

代表：杉岡隆 医学部教授

プロジェクト **F** 地域空間再生デザイン・プログラム

(連携自治体) 佐賀市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市

景観や街並み整備など、地域再生において重要な「地域デザイン」、特に地域の空間分析と将来像をわかりやすく示すことができるよう、対象地の空間的特質や課題を捉えた計画設計、及びデジタルデザインへの展開ができる人材(デザインクリエイター)の育成を行います。また、西九州大学によるプロジェクトKと連携し、都市のUD(ユニバーサル・デザイン)による再生にも寄与します。

代表：三島伸雄 工学系研究科教授



プロジェクト **G** アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト

(連携自治体) 佐賀市

平成24年度に農学部の新設された附属アグリ創生教育研究センターと医学部、西九州大のプロジェクトH・Kが連携して実施するプログラム。農の多面的機能に着目して、生き物を通じた医療や総合的食農教育モデルを開発・実践する「医農連携」と、産学連携の実習を含めたカリキュラムです。

代表：上埜喜八 農学部附属アグリ創生教育研究センター准教授



西九州大学の5つのプロジェクト

プロジェクト **H** 介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム
(連携自治体) 佐賀市・神埼市・吉野ヶ里町
(代表) 上城憲司准教授 ★

プロジェクト **I** 保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム
(連携自治体) 神埼市・小城市
(代表) 樹田晃良教授

プロジェクト **J** 「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり
(連携自治体) 佐賀市・小城市
(代表) 岡部由紀夫講師 ★

プロジェクト **K** 産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト
(連携自治体) 佐賀市・神埼市・小城市・嬉野市・吉野ヶ里町
(代表) 安田みどり教授 ★

プロジェクト **L** 地域住民と連携した交通UDプロジェクト
(連携自治体) 佐賀市・小城市
(代表) 酒井出教授 ★

学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム



短期留学生プログラムで吉野ヶ里町へ

プログラムの概要

事業実施主体: 全学教育機構

連携部局: 文化教育学部人間環境課程、工学系研究科都市工学科、医学部地域医療支援学講座、農学部地域社会開発学コース



実施代表者
五十嵐 勉
全学教育機構・教授

■取り組む地域課題:

- ・ 中心市街地の活性化・離島のQOL向上
- ・ 中山間地域の活性化・地域コミュニティの再生

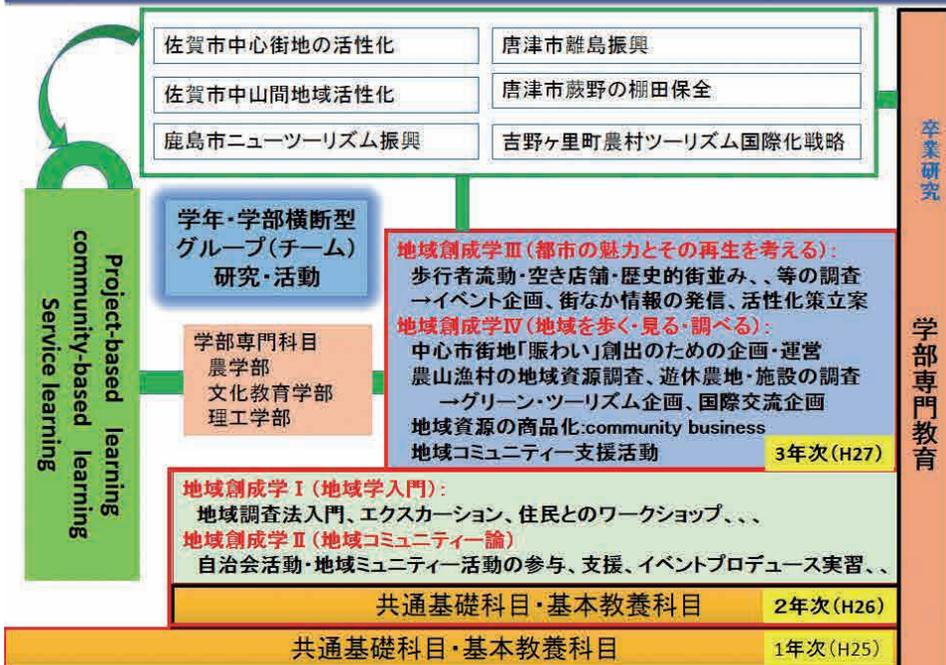
■連携プロジェクト: B、E、F、J

■連携自治体等: 佐賀市、唐津市、鹿島市、吉野ヶ里町、NPO法人ユマニテさが、認定NPO法人地球市民の会等

■教育カリキュラム:

- ・ 全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL/SL型フィールドワーク、community-based learning
- ・ インターフェース「地域・佐賀学コース」: 地域創成学プログラム
- ・ インターフェース「文化と共生コース」: 映像・デジタル表現プログラム
- ・ インターフェース「生活と科学コース」: アントレプレナーシップ・プログラム
- 短期留学SpaceJ&SpaceE: 日本事情研修

教養教育科目: インターフェース「地域・佐賀学」コース・「地域創成学」プログラム



■主なPBL・SL型教育の地域とテーマ

佐賀市：

- ・サテライト「ゆつつら〜と館」を利用した世代間交流、イベント・プロデュースの企画と実践
- ・地域コミュニティ組織（町づくり協議会）への参画による校区「夢プラン」の企画・実施の支援
- ・中山間地域における耕作放棄地の抑止・活用のための「参加型農地管理」のビジネスプラン、「村おこし」イベント・プロデュースの企画・実践

唐津市：

- ・離島における地域資源の発掘とその活用
- ・藤野の棚田保全活動の企画・支援、フットパス・ツーリズム振興、障がい者就労支援

鹿島市：ニューツーリズム振興の企画・支援

吉野ヶ里町：

- ・国際ルーラルツーリズムの企画・支援
- ・水源地（五ヶ山ダム）活性化計画の支援

■平成25年度の活動

■佐賀市富士町での地域振興イベントの支援

「日本一のおにぎりを食べる会in古湯温泉」

農学部地域社会開発学コース

- ・地域資源学演習Ⅱ（5名）・卒業研究（2名）

連携学生サークル：For.S（フォーエス）、√佐大（ルートサダイ）、ropE（ローブ）

連携団体：古湯温泉旅館組合青年部、ベジボーイズ

活動内容：

- ・杉山産コシヒカリ食味テスト、有明海産海苔食味テスト
- ・村おこし運動の研究

■吉野ヶ里町ルーラルツーリズム振興

短期留学生プログラムSpaceE、SpaceJ（53名）

農学部地域社会学コース

- ・フィールドワーク基礎演習（16名）
- ・地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ（5名）
- ・卒業研究（2名）

連携団体：吉野ヶ里おとなの村旅応援団実行委員会、さざんか塾、さざんか千坊館、修学院、吉野ヶ里町役場



佐賀市富士町での地域振興イベントの支援



吉野ヶ里町修学院での座禅体験



藤野の棚田保全支援活動

■唐津市 蕨野の棚田保全支援活動

農学部地域社会開発学コース

- ・環境地理学 (15名) ・地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ (5名)
- ・卒業研究 (1名)

連携団体：NPO法人蕨野の棚田を守ろう会

活動内容：

- ・里山の環境とその保全・農業分野での障がい者就労支援



「新籠海岸」における渡り鳥の生息調査

■鹿島市 ニューツーリズム振興支援

農学部地域社会開発学コース

- ・環境地理学 (26名) ・地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ (5名)
- ・卒業研究 (1名)

連携団体：七浦振興会、日本野鳥の会佐賀県支部

活動内容：

- ・シギ・チドリネットワーク登録地「新籠海岸」における渡り鳥の生息調査・干潟体験ツーリズム

■比較対象地域の事例研究（韓国順天湾）

ラムサール条約登録とエコツーリズム振興に関する共同研究

担当者：五十嵐勉（全学教育機構）李 應喆（農学部）

中川 宏（鹿島市産業部長）、下村浩信（鹿島市農林水産課）、

中村さやか（日本野鳥の会）

■授業科目・担当者一覧

■全学教育機構「インターフェース：地域・佐賀学コース」— 「地域創成学」プログラム

地域創成学Ⅰ（地域学入門）：26年度前期

担当：五十嵐勉（全学教育機構）、稲岡 司・辻 一成（農学部）

地域創成学Ⅱ（地域コミュニティ論）：26年度後期

担当：五十嵐勉・山内一祥（全学教育機構）

地域創成学Ⅲ（都市の魅力とその再生を考える）：27年度後期

担当：三島伸雄・後藤隆太郎・瀧上貴由樹（工学系研究科）

地域創成学Ⅳ（地域を観る・歩く・調べる）：27年度前期

担当：五十嵐勉（全学教育機構）、

山下宗利・藤永 豪（文化教育学部）

■全学教育機構「インターフェース：文化と共生コース」— 「映像・デジタル表現」プログラム

担当：穂屋下茂（全学教育機構）

■全学教育機構「インターフェース：生活と科学コース」－ 「アントレプレナーシップ」プログラム

担当：佐藤三郎・松前あかね（産学・地域連携機構）、
中村隆敏（文化教育学部）

■全学教育機構「短期留学プログラム（SpaceE&J）：日本事情研修」

担当：古賀弘毅・中山亜紀子・丹羽順子・布尾勝一郎（全学教育機構）

■関連する主な学部専門科目

文化教育学部：地理学フィールドワーク実習（山下宗利）・
集落実地調査（藤永 豪）

理工学部：デザイン分析手法（三島伸雄他）・
卒業制作（三島伸雄他）

農学部：フィールドワーク基礎演習（小林恒夫他）、
農村開発学（五十嵐勉）、国際農村保健学（稲岡 司）、
半島島嶼産業論（小林恒夫）、観光人類学（李 應喆）、
地域ビジネス開発学演習Ⅰ・Ⅱ（白武義治・辻 一成）、
人類生態学演習Ⅰ・Ⅱ（稲岡 司・藤村美穂）、
地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ（李 應喆・五十嵐勉）、卒業研究

■関連する主な教育・研究・社会貢献業績

<教員>

（論文等）

・五十嵐勉：「棚田と里山」、棚田学会編『棚田学入門』、勁草書房、2014年（印刷中）

（講演等）

・五十嵐勉：「地域コミュニティと地域づくり」、ゆつつら～と街角大学、
2013年12月

・五十嵐勉：「地域コミュニティとファシリテーション学」、佐賀大学公開講座「市民のためのファシリテーション学Ⅰ」、2014年2月

・五十嵐勉：「地域づくりと地域コミュニティ」、
早良みなみ塾地域づくりセミナー、2014年2月

<学生>

・中牟田望都：「中山間地域における少量多品目栽培農業の可能性―吉野ヶ里町A農園を事例に―」、平成24年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文

・泰愛子：「農産物直売所の多角化戦略―観光開発志向型農産物直売所 さざんか千坊館を事例に―」、平成24年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文

・馬場佳菜子：「農業分野での障がい者就労支援―佐賀市・唐津市の障がい者就労継続支援B型作業所を事例に―」、平成24年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文

・横田翔吾：「日本におけるラムサール条約登録湿地の特性とその課題―荒尾干潟を事例に―」、平成24年度佐賀大学農学部地域社会開発学コース卒業論文

プロジェクト
B

学生参画による調査・対話・活動を通じた 環境保全プログラム



有明海の調査

プログラムの概要

■事業実施主体：全学教育機構

■連携部局：農学部、低平地沿岸海域研究センター、総合分析実験センター、工学系研究科



実施代表者
郡山 益実
全学教育機構・准教授

■取り組む地域課題：

- ・地域環境の保全と活用・有明海の環境
- ・干潟の保全と活用・市民協働型の環境教育

■連携プロジェクト：A、F

■連携自治体等：佐賀県、佐賀市、鹿島市、七浦振興会干潟体験事業部、佐賀環境フォーラム、NPO法人有明海再生機構、NPO法人ビッグ・リーフ、NPO法人みんなの森プロジェクト等

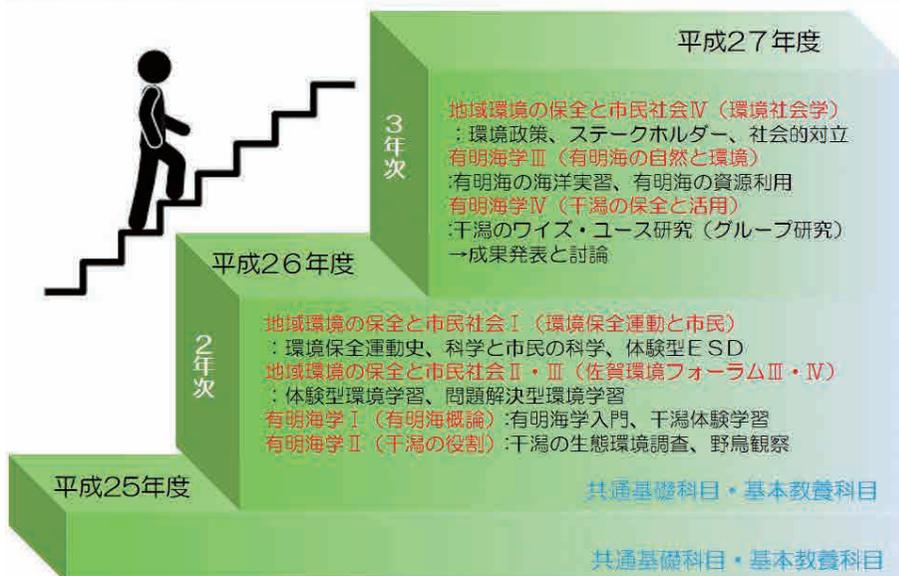
■教育カリキュラム：

・全学教育機構「インターフェース科目」におけるPBL/SL型フィールドワーク、インターフェース「環境コース」－「有明海学」プログラム・「地域環境の保全と市民社会」プログラム、インターフェース「文化と共生コース」－「映像・デジタル表現」プログラム

■主なPBL・SL型教育のテーマ

佐賀市：佐賀県生物多様性重要地域－クリークと有明海－における地域環境の保全、**鹿島市**：有明海の環境保全とエコツーリズム振興

全学教育機構インターフェース「環境コース」－学部・大学院専門科目との連携
低平地沿岸海域研究センター（有明海総合研究プロジェクト）との連携



■平成25年度の活動

■「有明海学－市民の科学講座」による市民・学生参加型の環境教育

第一回 ムツゴロウの体を知ろう

場所：鹿島市干潟展望館研修室

講師：嬉 正勝（佐賀大学文化教育学部）

第二回 干潟（海岸）のレアもの探し

場所：鹿島市干潟展望館およびその周辺の海岸

講師：藤井直紀、吉野健児（佐賀大学低平地沿岸海域研究センター）

第三回 有明海のクラゲ事情

場所：鹿島市干潟展望館

講師：藤井直紀（佐賀大学低平地沿岸海域研究センター）

第四回 有明海のノリ事情

場所：鹿島市干潟展望館

講師：川村嘉応（佐賀県有明水産振興センター）、
中村安弘（鹿島市干潟展望館）

第五回 有明海のカキ事情

場所：鹿島市干潟展望館および鹿島沿岸海域

講師：速水祐一（佐賀大学低平地沿岸海域研究センター）



市民の科学講座



有明海・干潟における環境調査及び実習

■有明海・干潟における環境調査及び実習

教養教育運営機構主題科目

・有明海の自然と環境（30名）

農学部生物環境科学科

・実験水気圏環境学（19名）・生物環境保全学演習（2名）

・卒業研究（3名）・沿岸海洋生態学（11名）

農学研究科生物資源科学専攻生物環境保全学コース

・Advanced Shallow Sea Environmental Engi.（1名）

・浅海環境工学特論（2名）・特別研究（1名）

活動内容：

- ・有明海における海洋実習及び調査
- ・有明海におけるノリの養殖場と加工工場の見学
- ・干潟におけるベントスの生態調査
- ・干潟底泥の基礎生産に関する調査・実験
- ・クリークにおける水質と懸濁物負荷量に関する調査・実験



留学生の有明海調査



ガタリンピックポスター

■授業科目・担当者一覧

■全学教育機構「インターフェース：環境コース」ー「有明海学」プログラム

有明海学Ⅰ（有明海学概論）：26年度前期

担当：郡山益実・五十嵐勉（全学教育機構）、速水祐一・濱田孝治（低平地沿岸海域研究センター）・李 應喆（農学部）

有明海学Ⅱ（干潟の役割）：26年度後期

担当：郡山益実（全学教育機構）

有明海学Ⅲ（有明海の自然と環境）：27年度前期

担当：速水祐一・濱田孝治（低平地沿岸海域研究センター）、郡山益実・五十嵐勉（全学教育機構）、李 應喆（農学部）

有明海学Ⅳ（干潟の保全と活用）：27年度後期

担当：五十嵐勉・郡山益実（全学教育機構）、速水祐一・濱田孝治（低平地沿岸海域研究センター）・李 應喆（農学部）

■全学教育機構「インターフェース：環境コース」ー「地域環境の保全と市民社会」プログラム

地域環境の保全と市民社会Ⅰ（環境保全運動と市民）：26年度前期

担当：五十嵐勉（全学教育機構）

地域環境の保全と市民社会Ⅱ（佐賀環境フォーラムⅢ）：26年度後期

担当：兒玉宏樹（総合分析実験センター）、宮島 徹（工学系研究科）

地域環境の保全と市民社会Ⅲ（佐賀環境フォーラムⅣ）：27年度前期

担当：兒玉宏樹（総合分析実験センター）、宮島 徹（工学系研究科）

地域環境の保全と市民社会Ⅳ（環境社会学）：27年度後期

担当：樫澤秀木（経済学部）・藤村美穂（農学部）

■関連する主な学部専門科目

農学部：実験水気圏環境学（郡山益実他）、生物環境保全学概説（郡山益実他）、環境地理学（五十嵐勉）、生態人類学（李 應喆）、地域資源学演習Ⅰ・Ⅱ（李 應喆・五十嵐勉）、環境社会学（藤村美穂）、卒業研究

経済学部：環境法・国際環境法（樫澤秀木）

■関連する教育・研究・社会貢献業績

(教員)

- ・M. Koriyama*, Y. Hayami, A. Koga, K. Yamamoto, A. Isnansetyo, T. Hamada, K. Yoshino, T. Katano, S. Yamaguchi, 2013年 : Seasonal Variations of Water Column Nutrients in the Inner Area of Ariake Bay, Japan: the role of the muddy sediments, Environmental Monitoring and Assessment, 185: 6831-6846
- ・Y. Ito*, T. Katano, N. Fujii, M. Koriyama, K. Yoshino, Y. Hayami, 2013年 : Decreases in turbidity during neap tides initiate late winter large diatom blooms in a macrotidal embayment, Journal of Oceanography, 69: 467-479.
- ・郡山益実, 荒木啓輔, 伊藤祐二, 片野俊也, 石谷哲寛, 2013年: 有明海奥部底質における吸着態NH₄⁺の季節変化とその影響因子, 土木学会論文集B2 (海岸工学) B2-69:1141-1145
- ・T. Katano, M. Yoshida, S. Yamaguchi, K. Yoshino, T. Hamada, M. Koriyama, Y. Hayami, 2013年: Effect of nutrient concentration and salinity on diel vertical migration of *Chattonella marina* (Raphidophyceae), Marine Biology Research, accepted (in press).
- ・Arai, K., T. Katano, 2013年: Preliminary study on phytoplankton distribution changes monitoring for the intensive study area of the Ariake Sea, Japan based on remote sensing satellite data, International Journal of Advanced Computer Science and Applications, accepted (in press).
- ・片野俊也, 吉野健児, 伊藤祐二, 速水祐一, 2013年: 有明海奥部におけるシャットネラの発芽シスト数と赤潮との関連. プランクトン学会報, (印刷中)
- ・Yoshino, K., Katano, T., Ito, Y., Hamada, T., Fujii, N., Hayami, Y., 2013年: Community assembly by recruitment limitation in a hypoxia-stressed soft bottom: A case study of macrobenthos in Ariake Bay. *Plankton and Benthos Research*, accepted (in press).
- ・片野俊也, 吉野健児, 伊藤祐二, 速水祐一, 2013年: 有明海奥部の植物プランクトンの季節変化: 特に夏季, 冬季の有害赤潮と環境要因の関連について. 沿岸海洋 51:53-64
- ・Yoshino, K., Katano, T., Hayami, Y., Hamada, T., Kobayashi, G., 2013年: Morphological variation of pallial organs at sites of differing turbidity: a case study of an arcid bivalve. *Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom* 93:1009-1015.

(学生)

- (第29回鹿島ガタリンピックにポスター出展)
- ・石谷哲寛: 「有明海の自然と環境」(ポスター)
- ・西山修司, 中村紀弓佳, 梅月佑里子, 山本敦士, 川崎隆一郎: 「干潟の機能と役割」(ポスター)

(学会発表など)

- ・石谷哲寛, 郡山益実, 宮本英揮: 「有明海奥部干潟域におけるTDR法を用いた干潟底泥の堆積量の測定」、農業農村工学会本大会講演会(東京、東京農業大学)、2013年9月
- ・石谷哲寛, 郡山益実, 宮本英揮: 「TDR法による泥質干潟表面位計測における解析手法について」、農業農村工学会九州支部講演会(宮崎市、宮崎観光ホテル)、2013年11月
- ・西山修司, 郡山益実, 石谷哲寛, 荒木啓輔: 「有明海奥部底泥における栄養塩溶出の季節変化」、農業農村工学会九州支部講演会(宮崎市、宮崎観光ホテル)、2013年11月

(卒業論文)

- ・中村紀弓佳: 「諫早湾及び調整池における底質の栄養塩環境のモニタリング」、平成25年度佐賀大学農学部生物環境保全学コース卒業論文
- ・坂井慎也: 「攪乱及び未攪乱底泥を用いた巻き上げ限界流速に関する実験的研究」、平成25年度佐賀大学農学部生物環境保全学コース卒業論文
- ・梅月佑里子: 「有明海奥部西岸域における底泥の巻き上げ現象とその発生海域について」、平成25年度佐賀大学農学部生物環境保全学コース卒業論文

地域の高齢者及び子どものヘルスプロモーション促進に向けた学生の実践力育成プロジェクト



佐賀大学での健康教室の様子

プログラムの概要

- 事業実施主体：文化教育学部
- 連携部局：文化教育学部健康スポーツ科学講座、文化教育学部地域生活講座



事業代表者
井上 伸一
文化教育学部・教授

- 取り組む地域課題：
 - ・地域の高齢者の健康増進と子どもの体力向上
- 連携自治体等：佐賀県、佐賀市、嬉野市、鹿島市、NPO法人スポーツフォアオール

教育カリキュラム：

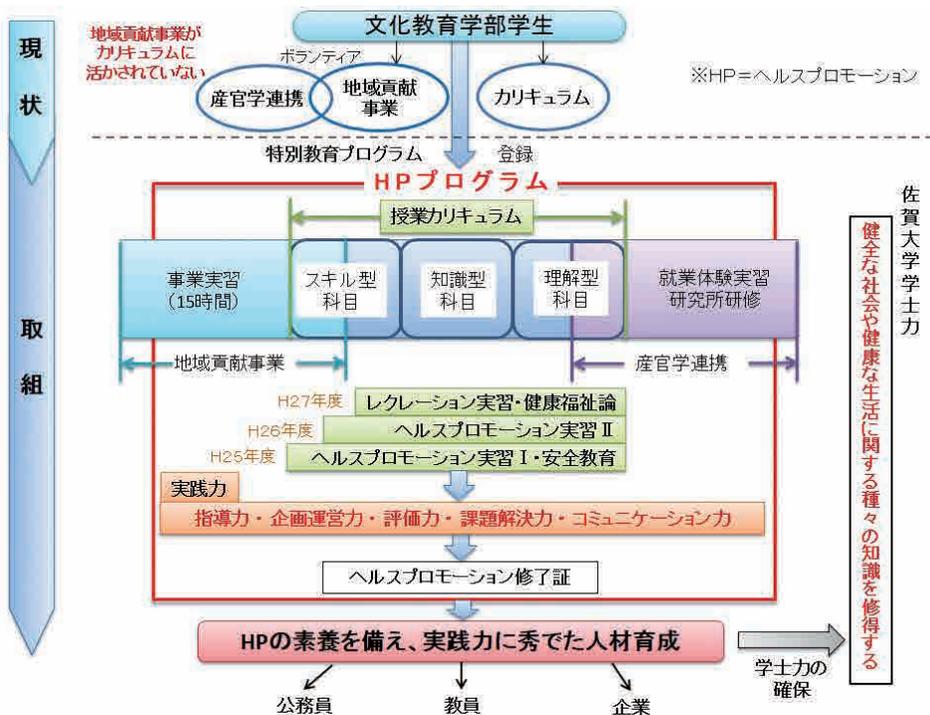
- ・ヘルスプロモーション実習・レクリエーション実習

平成25年度の活動

健康教室の開催

第18回佐賀大学中高齢者のための健康教室

- ・地域住民参加者（170名）
- ・ヘルスプロモーション実習I（29名）
- ・レクリエーション実習（5名）
- ・健康運動実践方法学特論I（3名）



第19回佐賀大学中高齢者のための健康教室

- ・地域住民参加者 (165名)
- ・ヘルスプロモーション実習Ⅱ (13名)
- ・安全教育 (34名)
- ・健康福祉論 (13名)

活動内容：

- ・健康増進のための各種トレーニングや健康・生活に関する簡単な講義
- ・体組成測定



健康や生活に関する講義も実施

■授業科目・担当者一覧

■文化教育学部

- ヘルスプロモーション実習Ⅰ・Ⅱ：26年度後期 担当：井上伸一
レクリエーション実習：26年度前期 担当：松山郁夫
健康福祉論：26年度後期 担当：山津幸司
安全教育：26年度後期 担当：栗原 淳



身体・体力測定

■関連する教育・研究・社会貢献業績

<学生>

(修士論文)

- ・「中高齢者向け健康教室における運動強度の評価と指導法の検証」
教育学研究科 平山沙季

(卒業論文)

- ・「健康教室における運動強度の評価」
健康福祉スポーツ選修 牟田口亮太
- ・「中高齢者の体組成データの分析」
健康福祉スポーツ選修 矢野裕明
- ・「自宅のできる健康教室」
健康福祉スポーツ選修 板垣成美



学生によるストレッチ



健康教室参加者

地域との連携による地域経済政策に関わる学生主体の調査研究と成果の地域社会への還元



東亜工機工場見学

プログラムの概要

■事業実施主体：

経済学部（地域経済研究センター）
 連携部局：全学教育機構インターフェース
 「地域・佐賀学コース」



事業代表者
富田 義典
 経済学部・教授

■取り組む地域課題：

- ・地域公共政策の立案
- ・地域産業の振興政策の立案
- ・地方政治の活性化
- ・地域ブランドの開発

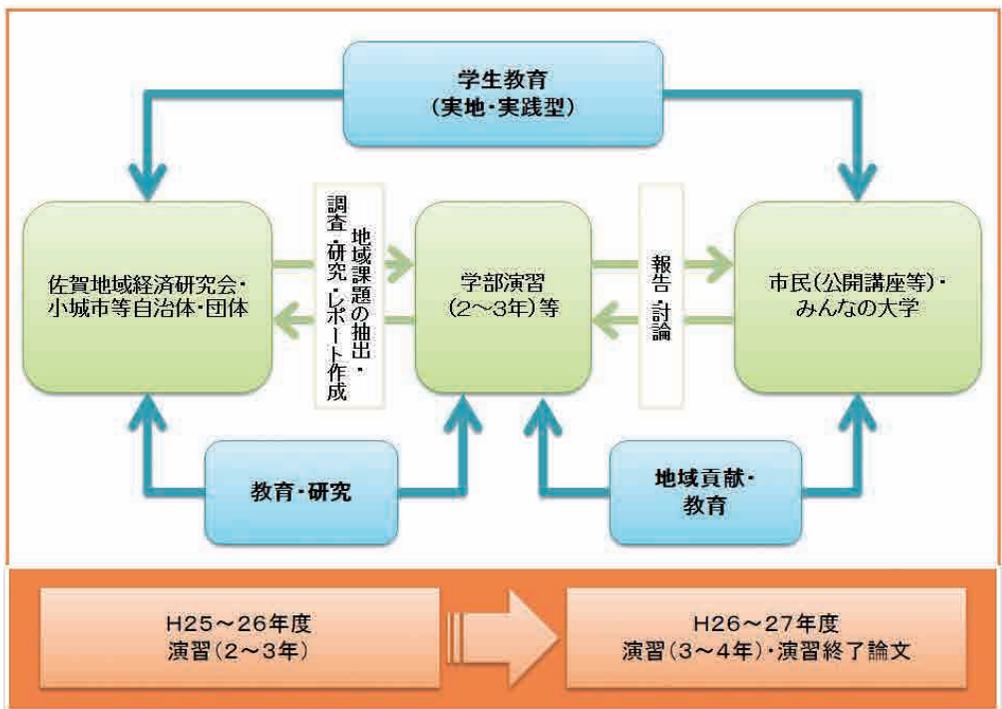
■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：

佐賀県（佐賀地域経済研究会）、小城市、嬉野市

■教育カリキュラム：

- ・インターフェース「地域・佐賀学コース」：地域経済と社会プログラム
- ・演習





小城市地域公共交通に関するワークショップ

■平成25年の活動

■地域政策の形成過程への学生による参与観察

「小城市の地域公共交通に関する調査研究」
経済学部経済システム課程総合政策コース
・演習(12名)

活動内容：

- ①小城市地域公共交通に関する調査研究
(現地見学・調査、ワークショップ)
- ②小城市高齢者大学での発表

■地域課題に関する学生による調査研究

「人口減少時代における地域資源を生かしたまちづくり」
経済システム課程総合政策コース
・演習(12名)

活動内容：

- ①地場産業地域の観光地化によるまちづくり：
伊万里市大川内山を事例として
- ②佐賀県太良町における「食」を活かした観光まちづくり
- ③資源循環を通して行うまちづくり：
福岡県大木町、佐賀県伊万里市を事例として



小城市地域公共交通に関する現地調査



佐賀大学公開講座「みんなの大学」での地域課題調査の発表

■学生による地域研究の発表

「市民大学等における学生の研究成果の発表」

経済学部経済システム課程総合政策コース

・演習 (21名)

活動内容:

- ①佐賀大学「みんなの大学」(公開講座)での学生による地域課題調査の発表
- ②全九州商経ゼミナール大会での学生による発表

■授業科目・担当者一覧

■全学教育機構「インターフェース:地域・佐賀学コース」一

「地域経済と社会」プログラム

地域経済と社会Ⅲ(地域と労働):27年度前期 担当:富田義典

■経済学部

演習(2~4年)

担当:富田義典、山本長次、畑山敏夫、榎澤秀木、納富一郎

■関連する教育・研究・社会貢献業績

(教員)

- ・山本長次『市村清と佐賀』岩田書店、2014年（近刊）
- ・富田義典「今日における地域雇用政策の意味」『佐賀地域研究会報告書』（第16号）2014年、（印刷中）
- ・戸田順一郎「地域公共交通のあり方に関する一考察」『佐賀地域経済研究会地域課題調査報告書』、2013年.
- ・山本長次「市村清の佐賀と経営への思い（講演）」2013年6月23日 佐賀新聞社 於、佐賀新聞社
- ・戸田順一郎「地域の足（地域公共交通）を考える（講演）」小城市三日月町晩成大学公開講座、2014年.

(学生)

- ・中山恭成「6次産業化による地域活性化」（24年度佐賀大学経済学部ゼミ修了論文）
- ・荒木拓也・甲斐龍之介・川崎真由美・山口初実「地場産業地域の観光地化によるまちづくり：伊万里市大川内山を事例として」全九州商経ゼミナール大会報告論文、2013年.
- ・荒木拓也・甲斐龍之介・川崎真由美・山口初実「地場産業地域の観光地化によるまちづくり：伊万里市大川内山を事例として（講演）」拡大版みんなの大学、2013年.
- ・一ノ瀬朱音・木下歩美・白土喜章・原奨平「佐賀県太良町における『食』を活かした観光まちづくり」全九州商経ゼミナール大会報告論文、2013年.
- ・一ノ瀬朱音・木下歩美・白土喜章・原奨平「佐賀県太良町における『食』を活かした観光まちづくり（講演）」拡大版みんなの大学、2013年.
- ・池田奈緒子・浦川幸宏・川野遼平・棚町愛理「資源循環を通して行うまちづくり：福岡県大木町、佐賀県伊万里市を事例として」全九州商経ゼミナール大会報告論文、2013年
- ・池田奈緒子・浦川幸宏・川野遼平・棚町愛理「資源循環を通して行うまちづくり：福岡県大木町、佐賀県伊万里市を事例として（講演）」拡大版みんなの大学、2013年.
- ・甲斐龍之介「小城市の地域公共交通について（講演）」小城市三日月町晩成大学公開講座、2014年.

離島・山間地域における保健医療とQOL向上のための 人材育成プロジェクト



加唐島診療所にて

プログラムの概要

■事業実施主体：医学部地域医療科学教育研究センター、医学部社会医学講座予防医学分野

■連携部局：農学部生物環境科学科地域社会開発コース、全学教育機構インターフェース「地域・佐賀学コース」

■取り組む地域課題：

- ・「へき地」医療人材の育成
- ・離島や山間地域の保健医療とQOLの向上



事業実施代表者
杉岡 隆
医学部・教授

■連携プロジェクト：A

■連携自治体等：佐賀県、佐賀市、唐津市、唐津赤十字病院、唐津市消防本部、佐賀県医療センター好生館、佐賀市三瀬診療所

■教育カリキュラム：

- ・地域枠入学生特別プログラム
- ・地域医療
- ・地域医療実習
- ・インターフェース「地域・佐賀学コース」：地域創成学プログラム



■平成25年度の活動

■自治医科大学生夏期実習

佐賀大学・長崎大学医学部合同実習

- ・佐賀大学医学部生1～4年生 (15名) 地域枠・佐賀県推薦枠
- ・佐賀大学医学部生6年生 (1名)
- ・佐賀大学医学部地域医療支援学講座 (5名)
- ・自治医科大学生1～4年 (8名) 佐賀県枠
- ・長崎大学医学部生1年生 (2名)

活動内容：

- ・唐津市神集島・小川島・加唐島・馬渡島診療所実習
- ・唐津市消防本部見学
- ・唐津赤十字病院見学
- ・佐賀県医療センター好生館見学
- ・地域医療センターで合同ディスカッション



唐津市馬渡島診療所での実習風景

唐津市の離島地図



唐津市消防本部見学



合同実習を振り返るグループディスカッション



唐津市加唐島診療所内での実習

■ 授業科目・担当者一覧

医学部：

地域枠入学生特別プログラム：26年度

（佐賀県内基幹病院・中核病院実習）

担当：杉岡 隆・福森則男 他

地域医療（ユニット1）：26年度前期

担当：杉岡 隆・福森則男 他

地域医療実習：26年度前期

担当：杉岡 隆・福森則男 他

在宅医療・在宅ケア実習：26年度通年

担当：杉岡 隆・福森則男 他

地域包括ケア実習：26年度通年

担当：杉岡 隆・福森則男 他

地域家庭医療実習：26年度通年

担当：杉岡 隆・福森則男 他

生活医療福祉学：26年度前期

担当：堀川悦男

社会医学・医療社会法制（ユニット12）：26年度後期

担当：市場正良・原 めぐみ 他

■関連する教養科目・学部専門科目

農学部：

- フィールドワーク基礎演習（小林恒夫他）、
- 島嶼社会経済学演習I・II（小林恒夫）、
- 国際農村保健学（稲岡 司）、
- 人類生態学演習I・II（稲岡 司・藤村美穂）、
- 地域資源学演習I・II（李 應喆・五十嵐勉）

全学教育機構：

- インターフェース「地域・佐賀学コース」ー
- 「地域創成学」プログラム
- 地域創成学I・II・IV（五十嵐他）

■関連する教育・研究・社会貢献業績

（教員）

- ・杉岡隆 寄稿：「基幹病院専門内科ローテートと地域密着型病院を組み合わせた新たな後期研修幅広く対応できる医師をめざして」、週刊医学会新聞、2013年8月5日発行
- ・杉岡隆：フォーラム「地域医療に若い力を」「佐賀大学での医師の支援、教育」講演 第30回九州地域医学研究会 於 マリトピア、2013年2月9日
- ・杉岡隆、坂西雄太：平成24年度佐賀市立国民健康保険三瀬診療所保健事業健康講話 於 三瀬保健センター、2013年3月6日
- ・坂西雄太、徳富潤、藤原元嗣、百武正樹、京楽格、木須達郎、春田善男、杉岡隆、山下秀一：「地域の公立病院に設置した佐賀大学医学部附属病院サテライト教育・診療センターにおける総合内科医育成と地域医療連携の試み 第110回日本内科学会学会講演会」、2013年4月13日
- ・坂西雄太、原めぐみ、草場鉄周、田中恵太郎、杉岡隆、日本プライマリ・ケア連合学会ワクチンに関するワーキンググループ：「わが国のプライマリ・ケア医のワクチンに対する認識と接種推奨の障壁に関する調査 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」、2013年5月18日
- ・坂西雄太、徳富潤、藤原元嗣、徳島圭宜、山口りか、福森則男、吉岡経明、百武正樹、京楽格、春田善男、向井伸介、木須達郎、杉岡隆、山下秀一：「地域教育研修病院の専門内科研修と地域公立病院内大学附属サテライト診療センター研修による総合内科医育成第7回日本病院総合診療学会学術総会」、2013年8月31日
- ・福森則男：佐賀大学医学部地域医療支援学講座「総合内科医育成プログラム」第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 於 仙台、2013年5月17-18日
- ・福森則男：ワークショップ講師「第6回 臨床研究デザイン道場 - リサーチ・クエスションの構造化 -」 第4回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 於 仙台国際センター、2013年5月19日
- ・福森則男、大西良浩、矢吹省司：ペインクリニックvol.34(2013.4)別冊春号別刷 真興交易(株)医書出版部、2.臨床研究 4)腰部脊柱管狭窄症の疫学調査 日本における腰部脊柱管狭窄症の推定有病割合：Population-based study
- ・原めぐみ、田中恵太郎：「喫煙・受動喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果：佐賀県の小学校6年生の153校7585人を対象として」、日本公衆衛生学雑誌 60： 444-452
- ・原めぐみ、宮崎博喜：「健康クイズ100」、少年新聞社・東京、2013年

地域空間再生デザイン・プログラム



まちなかシェアハウス「まちの間」第3号

プログラムの概要

■事業実施主体：工学系研究科

■連携部局：全学教育機構インターフェース
「地域・佐賀学コース」、農学部生物環境科学
科地域社会開発学コース、医学部地域医療支
援学講座、文化教育学部人間環境課程、全学
教育機構・デジタル表現技術者養成プログラ
ム、産学・地域連携機構（ゆつつら〜と館）



実施代表者
三島 伸雄
工学系研究科・教授

■取り組む地域課題：

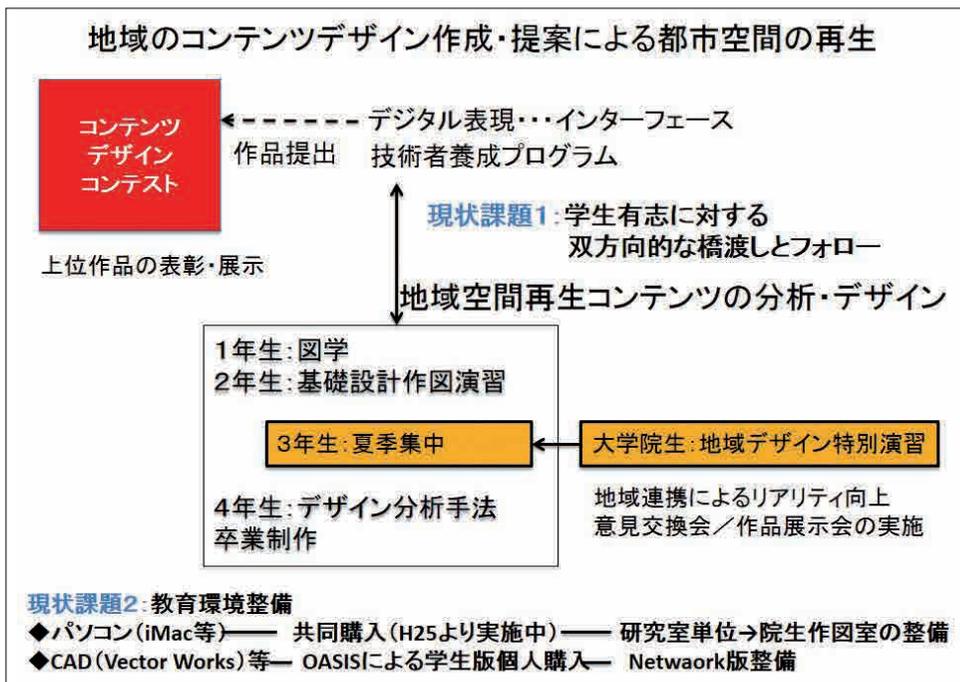
・中心市街地の活性化・まちなか再生・歴史的環境の再生と保全

■連携プロジェクト：A、J、L

■連携自治体等：佐賀市、小城市、唐津市、嬉野市、鹿島市、
NPO法人まちづくり機構ユマニテさが、NPO法人肥前浜宿水と
まちなみの会、いきいき唐津株式会社

■教育カリキュラム：

・インターフェース「地域・佐賀学コース」地域創成学プログラ
ム、建築都市デザインプログラム



■平成25年度の活動

■佐賀市のまちなか居住推進活動への参画

「まちなかシェアハウス『まちなか』第3号」

理工学部都市工学科

- ・建築・都市デザイン特別講義（まちなか再生プロジェクト）
（18名）

連携学生サークル：コミュニティデザインクラブ

連携団体：佐賀市

特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

これまで佐賀大学三島伸雄研究室・田口陽子研究室が実験的に行っていたまちなかシェアハウス「まちなか」を、佐賀市との連携で採算性などを考慮した取り組みに発展させ、上記の授業の一環として学生が以下のことに取り組んだ。

- ・佐賀市まちなかの学習
- ・居住スペースの企画と計画
- ・建築工場の現場視察と工程等の学習
- ・一部の工事への参加



「まちなか3号」の工事現場の視察



「まちなか3号」完成後の建物外観

■佐賀市の賑わい創出活動への参画

「ライトファンタジー」

理工学部都市工学科

- ・建築・都市デザイン特別講義（まちなか再生プロジェクト）
（5名）

・工学系研究科都市工学専攻博士前期課程2年TA（2名）

連携団体：佐賀市、特定非営利活動法人まちづくり機構ユマニテさが

活動内容：

佐賀市の駅前からの中央大通りと中心市街地を、バルーンフェスタとクリスマスシーズンに合わせてLEDを用いたライティングを行うプロジェクトに参画した。

- ・担当箇所におけるライティングのデザイン
- ・ライティングの実施作業
- ・ライティング状況の確認



佐賀市「ライトファンタジー」に設置したライティングの修正作業

■鹿島市再生事業の支援

「鹿島市民会館改築プロジェクト」

- ・理工学部都市工学科・卒業研究(4名)
- ・工学系研究科都市工学専攻博士前期課程・都市工学コロキウム(4名)

連携団体:鹿島市

活動内容:

鹿島市の市民会館老朽化を受けた改築計画について、鹿島市民会館建設研究会に参画した。

- ・改築対象地の検討
- ・改築に向けた施設内容の検討
- ・改築案の企画検討

■「肥前鹿島駅および駅前広場整備プロジェクト」

・工学系研究科都市工学専攻博士前期課程・建築・都市デザイン特別演習Ⅱ(6名)

連携団体:鹿島市

活動内容:

肥前鹿島駅および駅前広場の改築計画について、鹿島市肥前鹿島駅改修検討委員会の課題に対して演習として将来像の検討に取り組み、提案を行った。

- ・改築対象地の調査
- ・改築に向けた施設配置の検討
- ・改築案のデザイン検討

■デザインクリエイター育成に向けた建築・都市デザイン製図室整備

「CADやDTPソフトを活用した地域デザイン演習体制の構築」

- ・i-Mac 10台整備
- ・CAD (VectorWorksネットワーク版)、Adobe製品等の導入
- ・LANネットワークの構築
- ・プロジェクトの設置



鹿島市の検討プロジェクトチームとの打合せ

■授業科目・担当者一覧

理工学部: 建築・都市デザインコース

図学:26年度後期 担当:三島伸雄・瀧上貴由樹

基礎設計製図演習:26年度前期

担当:後藤隆太郎・田口陽子・瀧上貴由樹

建築都市デザイン演習Ⅰ:26年度後期

担当:田口陽子・高木正三郎・瀧上貴由樹

建築都市デザイン演習Ⅰ:26年度前期

担当:平瀬有人・高木正三郎・瀧上貴由樹

建築都市デザイン演習Ⅱ:26年度後期

担当:三島伸雄・平瀬有人

建築デザイン手法:26年度前期

担当:平瀬有人・三島伸雄・後藤隆太郎・田口陽子

建築・都市デザイン特別講義(地域再生プロジェクト)

担当:三島伸雄・平瀬有人・後藤隆太郎・田口陽子

小島昌一・中大窪千晶・瀧上貴由樹

関連する教養教育科目:

全学教育機構:インターフェース

「地域・佐賀学コース」-「地域創成学」プログラム
地域創成学Ⅲ

担当:三島伸雄・後藤隆太郎・瀧上貴由樹

全学教育機構 インターフェース「文化と共生コース」-

「映像・デジタル表現」プログラム

映像・デジタル表現Ⅰ(穂屋下茂他)

映像・デジタル表現Ⅱ・Ⅲ(中村隆敏)

映像・デジタル表現Ⅳ(穂屋下茂他)

■関連する教育・研究・社会貢献業績

(教員)

- ・Nobuo Mishima, Naomi Miyamoto, Yoko Taguchi, Keiko Kitagawa: Analysis of Current Two-way Evacuation Routes based on Residents' Perceptions in a Historic Preservation Area, International Journal of Disaster Risk Reduction, Vol. 8, pp.10-19, 2014
- ・Nobuo Mishima, Daisuke Ishimaru, Keiko Kitagawa, Yukuo Hayashida, Yong-Sun Oh, Sun Gyu Park: Development of a Residential Situation Database Based on Interviews toward a Safe Historic Village, Proceedings of International Conference on Convergence Content 2013 (ICCC 2013), VOL.1, NO.3, 79 - 80, Dec. 2013
- ・鹿島市+佐賀大学(三島伸雄、淵上貴由樹他):「鹿島市民会館建設研究会報告書」、2014.3.(予定)
- ・三島伸雄、講習「歴史的町並みの保存と防災 ～延焼への対策～」、ヘリテージマネージャー講習会(講師)、旧唐津銀行ホール(唐津市)、参加者50名、2013.10.03.
- ・三島伸雄、講習「歴史的町並みの保存と防災 ～避難経路の確保～」、ヘリテージマネージャー講習会(講師)、旧唐津銀行ホール(唐津市)、参加者50名、2013.10.03.
- ・三島伸雄、特別講義「歴史的町並みの保存と防災 ～延焼と避難の対策～」、平成25年度伝統的建造物群保存地区担当者事務連絡会及び伝統的建造物群保護行政研修会(実践コース)、鹿島市役所5階大会議室(佐賀県鹿島市)、参加者70名、2013.11.08
- ・後藤隆太郎、基調報告「佐賀城内の空間資源とまちづくり」及びパネルディスカッションのパネラー、佐賀城シンポジウム(佐賀城の整備とこれからのまちづくり)、佐賀県立美術館ホール(佐賀市)、参加者約60名、2013.11.03.

(学生)

- ・Shoichi Kojima, Thermal Environment of the Saga Castle Moat and Effect of Thermal Mitigation of Aquatic Plants, Proceedings of the 4th International Conference on Engineering, Project and Production Management, pp.208-218, Oct. 24. 2013
- ・Daisuke Ishimaru, Nobuo Mishima, Naomi Miyamoto, Yoko Taguchi, An Analysis of the Current Conditions of Two-way Evacuation Routes in a Historic Preservation Area: The Probability of Street Blockades, Proceedings of the 4th International Conference on Engineering, Project, and Production Management, pp.385 - 394, Oct. 24. 2013
- ・Satoshi Osajima, Nobuo Mishima, Yoko Taguchi, Analysis on Diversion of Surrounding Sites along an Urban Linear Element accompanied with its Use Conversion, Proceedings of 4th International Conference on Engineering, Project, and Production Management, pp. 460-469, Oct. 24. 2013
- ・Shoichiro Anai, Nobuo Mishima, Yoko Taguchi, Land Use Management Practices of Ureshino Onsen (Hot Springs) Inn Association, Japan, Proceedings of 4th International Conference on Engineering, Project, and Production Management, pp. 482-491, Oct. 24. 2013
- ・石川希莉加:「スケール学習に向けたブロック型空間造形ツールの提案と実証」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・内田大資:「協業化に伴う有明海沿岸海苔養殖漁家の家内作業場の変容実態」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・一色有沙:「佐賀県住宅供給公社の住宅供給の変化とその特徴-住宅平面と団地計画を中心に-」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・野口沙織:「佐賀城南瀬における水生植物の水温上昇抑制効果に関する研究」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・副田和哉:「風景への誘い -佐賀市、東名遺跡における媒体としての建築-」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業制作
- ・西村道生:「佐賀市中心市街地におけるアーケード内部空間の微気候の実態把握」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文
- ・村石勇次郎:「佐賀平野における地理的特性を考慮した熱環境の基礎的研究」、平成25年度佐賀大学理工学部都市工学科卒業論文

アグリ資源の多様性を活用したアグリ医療及び機能性食品の開発プロジェクト



ヒトとの接触時間がトカラヤギの行動におよぼす影響調査

プログラムの概要

■事業実施主体：アグリ創生教育研究センター

■連携部局：文化教育学部教育実践総合センター、農学部応用生物科学科生物資源開発学講座

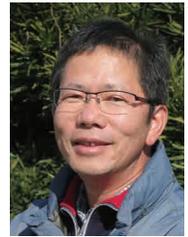
■取り組む地域課題：

- ・アグリ医療やセラピー教育の開拓と普及
- ・機能性食品の開発とそれに関わる人材の育成

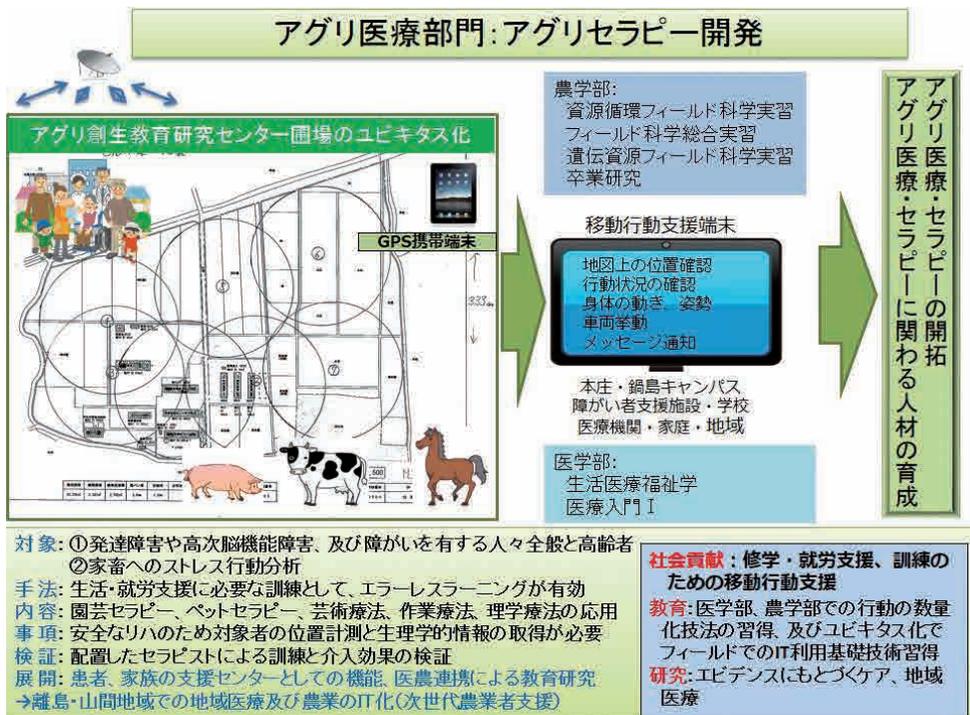
■連携プロジェクト：H、K

■連携自治体等：佐賀市、唐津市、嬉野市、神崎市、吉野ヶ里町

■教育カリキュラム：遺伝資源フィールド科学実習



実施代表者
上埜 喜八
農学部・准教授



■平成25年度の活動

■セラピーに携わる人材の養成

- ・人との触れ合いによる家畜の身体的変化を探る
- ・遺伝資源フィールド科学実習 (6名)

活動内容:

- ・家畜の扱い方の教育
- ・家畜の心拍数、血圧の測定



家畜の心拍数、血圧の測定

■医学部における心肺機能測定実習

- ・医学部医学科 (27名)

活動内容:

- ・歩行速度上昇に伴う心肺機能の変化を測定
- ・高齢者の易転倒性の測定実習



歩行速度上昇に伴う心肺機能の変化を計測

■佐賀市バルーンフェスタでの農産物販売

- ・遺伝資源フィールド科学実習 (6名)

活動内容: 農産物の販売

連携団体: 佐賀県



歩行速度上昇に伴う心肺機能の変化をビニールハウス内で計測



佐賀市ハルーンフェスタでの農産物販売

■ 授業科目・担当者一覧

農学部：

遺伝資源フィールド科学実習：26年度後期 担当：上埜喜八 他

フィールド科学総合実習：26年度前期 担当：上埜喜八・松本雄一

資源循環フィールド科学実習：26年度前期 担当：上埜喜八 他

植物代謝解析学実験Ⅰ・Ⅱ：26年度前後期 担当：石丸幹二

卒業研究

医学部：

生活医療福祉学：26年度前期 担当：堀川悦夫 他

医療心理学：26年度前期 担当：堀川悦夫 他

■ 関連する教育・研究・社会貢献業績

(教員)

- ・石丸幹二：微生物制御発酵茶、新版 茶の機能(農文協、衛藤英男ら編集)、pp.494-501、2013
- ・Kanegae A., A. Sakamoto, H. Nakayama, Y. Nakazono, I. Yakashiro, Y. Matsuo, T. Tanaka, K. Ishimaru : New phenolic compounds from *Camellia sinensis* L. fermented leaves. *Journal of Natural Medicines*, 67, 652-656、2013
- ・小西史子、石丸幹二、平田悠季、吉玉國二郎、香西みどり：煮熟操作が佐賀県産「正月豆」の抗酸化能に及ぼす影響、*日本家政学会誌*、64、307-313、2013
- ・Nishikawa. K., A. Patar, N. Tanaka, K. Ishimaru: Antibacterial activities of extracts and constituents in the rhizomes of diploid and tetraploid gingers (*Zingiber officinale* Roscoe) 、*Japanese Journal of Food Chemistry and Safety*, 20, 215-220, 2013
- ・江原史雄、塩見宜久、尾野喜孝：ブタにおける唾液アミラーゼ活性のストレス指標としての有効性、*Coastal Bioenvironment*, 19, 49-54, 2012

(学生)

- ・塩見宜久：「唾液アミラーゼ活性のブタにおけるストレス指標としての有効性」、平成23年度佐賀大学農学部資源循環フィールド科学分野 卒業論文
- ・井手口 亜衣：「ヤギの飼育環境の変化に対するストレスの評価」、平成24年度佐賀大学農学部資源循環フィールド科学分野 卒業論文
- ・山口 莉穂：「ウシにおける唾液アミラーゼ濃度のストレス指標としての有効性」、平成24年度佐賀大学農学部資源循環フィールド科学分野 卒業論文
- ・住吉美紀：「ヤギ導入が牛群の行動および生理に与える影響」、平成25年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文
- ・吉永昂輝：「ヒトとの接触時間がトカラヤギの行動におよぼす影響」、平成25年度佐賀大学農学部家畜医療応用学分野 卒業論文

■学生の地域での活動拠点

佐賀市 街なか再生のサテライト「ゆつら〜と館」

佐賀市呉服元町の「むつごろう広場」に面した洋服屋の2階にある佐賀大学サテライト「ゆつら〜と館」。街なか活性化の拠点として開館して11年目の平成24年10月、コミュキャン佐賀の推進室として再出発した。日中は、「高齢者のための学びの場：ゆつら〜と街角大学」や講座修了生による自主サークル「すみれ会（合唱クラブ）」・「健康麻雀教室」・「パソコンクラブ」の活動の場として賑わい、夜間は学生グループ、佐賀大による学習塾「街なか寺子屋」、大学のキャリアアップ・セミナーの公開講座の場として利用されています。

今後は、従来の利用に加えて、コミュキャン佐賀の推進室として、日中は西九州大学を含む学生と市民のラーニング・コモンズとして活用します。



ゆつら〜と館



市民と学生による
ワールド・カフェ
佐賀大学公開講座
「市民のための
ファッション学」

佐賀市 空き店舗の再生と活用「さがよかこの家」

「ゆつら〜と館」から徒歩2分。元文具屋さんの空き店舗を理工学部都市工学科の三島教授と学生たちがリフォームした「まちの間第3号さがよかこの家」。1階は佐賀市内に数多く点在するエビス像で町おこしを行っている団体の活動拠点「開運さが恵比寿ステーション」、そして2階はシェアハウスとして学生たちが2014年3月から住み込みます。学生が街なかに住み込みながら、市民との協働による活性化を進めます。



さがよかこの家

再生店舗に入居する学生たち

鹿島市 干潟環境教育サテライト「むつごろう館」

ガタリンピックで有名な有明海の干潟。鹿島市七浦海浜公園（道の駅「干菜市」）の一角にある佐賀大学の干潟環境学習サテライト「むつごろう館」。大学生だけでなく地元の小学生や修学旅行生の環境学習施設として活用しています。干潟体験のできないオフシーズンには野鳥観察や「クラゲ水族館」も人気。佐賀市東与賀町の大授搦・鹿島市新籠海岸を含めた有明海北岸地域のラムサール条約への登録とエコツーリズム振興の拠点として活用します。



むつごろう館



渡り鳥について学ぶ学生たち

**唐津市
相知町** **棚田と里山再生の拠点
空き家活用「蕨野の棚田」**

国（文化庁）重要文化的景観選定地、唐津市相知町の「蕨野の棚田」。耕作放棄地の復田活動から農学部の棚田実習田としての活用へと展開して11年。学生・市民参加型の棚田保全活動として、障がい者の農業分野での就労支援やフットパス・ツーリズムの振興の場として、これからも活用していきます。



棚田での田植え実習



重要文化的景観蕨野の棚田

**唐津市
神集島** **離島振興の拠点
「合宿研修所」**

唐津市の離島「神集島（かしわじま）」。佐賀大学の合宿研修所や小さな診療所や集会所を活用して、離島で働く医療人材の育成や島民の生活の質の向上（QOL）をはかるプロジェクトの拠点です。唐津市には7つの離島がありますが、ここを拠点に学生たちが渡船や漁船で島を回りながら活動を行って行きます。



島の資源調査発表会（神集島集会所にて）



神集島の「くんち（祭礼）」を島民と楽しむ

学生の活動拠点は他にもたくさんある！

- ・吉野ヶ里町の禅寺「修学院」：吉野ヶ里農村ツーリズムの国際化拠点
- ・佐賀市内の各公民館：地域コミュニティ再生支援の拠点
- ・佐賀市富士町・三瀬村：中山間地域振興の拠点は、定番「公民館」



■市長と語る会（佐賀市）

—コミュキャン佐賀が目指す学生像—

日 程：1月28日（火）19:00～20:30

場 所：佐賀大学まちづくりサテライト
「ゆつつら〜と館」
（〒840-0824 佐賀市呉服元町／
呉服町アーケード内656広場そば）

概 要： 佐賀市長と佐賀市内で活動する佐賀大学、西九州大学の学生16名が、直接、意見交換を行った。より良い街づくりを目的に、学生たちの市内における活動紹介と市政への意見・要望等を伝えた。

参加者：佐賀市長・秀島敏行
佐賀市役所総務部秘書課広聴係・
係長 伊藤孝治
佐賀大学全学教育機構教授
（産学・地域連携機構地域連携部門長）
五十嵐勉
西九州大学教授
（学務部長／地域連携センター副センター長）
井本浩之
佐賀大学：学生グループ5団体13名
西九州大学：学生3名
佐賀大学マスコットキャラクター・
カッチーくん

プログラム：

1. 記念撮影
2. 市長挨拶
3. 佐賀大学・西九州大学挨拶
4. 各学生グループの市内での活動紹介
（各団体5分程度）
5. 学生から市長への質問・要望
6. 閉会



みんなそろって、「はい、カッチー」



パネルを使って活動を紹介



学生の質問や要望に応える秀島市長

■市長と語る会に参加した学生グループの紹介

佐賀
大学



√佐大（ルートさだい）

佐賀大学サテライト「ゆつたら〜と館」で、小・中学生を対象に学習塾街なか寺子屋を行うなど、中心市街地の活性化を目的に活動しています。

まちづくり団体 √佐大（ルート佐大）

経済学部 経済システム課程 深川昌子

経営学科 大野元太

経済法学科 角森暁哉

設立 平成21年11月27日

理念 若者と町の架け橋になる

目的 まちに若者を呼び込み、中心市街地の活性化を促す

メンバー構成 現在2年生 2名 1年生 7名 計9名



活動内容

- ・街なかでの学習塾の経営
- ・街なか寺子屋プロジェクト

これからの活動計画

- ・街なか清掃
- ・街なかの情報を発信（オンラインを利用）
- ・街なか店長体験
- ・学習塾の向上
- ・NPOユマニテさんからの依頼で街なか瓦版を配布



記
録

佐賀
大学



さがん東北応援チーム ropE, (ロープ)

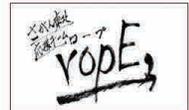
佐賀を拠点に、東日本大震災被災地復興への意識向上と風化防止のため、継続的な支援活動を行っています。

さがん東北応援チーム ropE, (ロープ) の活動報告

経済学部 経営・法律課程 松瀬 真美

大水 希望

丸亀 春華



【設立】 2012年4月12日

【メンバー】 佐賀大学院生・学部生 (9名)

【理念】 佐賀における東北復興への意識向上、風化防止を目的に、持続性に富んだ支援活動に寄与する



【活動内容】

- ◆ワークショップ (ワールドカフェ等)
- ◆販売 (大学生協・イベント出店)
- ◆東北を考える研修バスツアー企画・運営



チャリさがさいせい

放置自転車問題の解決や地域活性化を目的に、大学内の放置自転車を再生し、販売やイベントでのレンタサイクルを行っています。

チャリさがさいせい活動報告書

文化教育学部人間環境課程 永尾 明彦
農学部 応用生物科学科 岡村 輝太
文化教育学部 美術工芸課程 高松 光

結成：2009年9月2日 初代代表秋山と有志数名にて設立
目標：市内の放置自転車問題の解決及び地域活性化
活動人数：積極的に活動するメンバー20人程度（2年7名、1年13名）在学中のaa. 各所に名前があるメンバーを合わせて20名程度
主な活動紹介：自転車修理、放置自転車再生、学外イベントでのレンタサイクル



まちの間

佐賀市の中心商店街の空き店舗を改修し、学生自らが居住。街なか再生のための手法について実体験を通して学びます。

まちの間の活動報告

理工学部都市工学科 長野 真帆
田中 萌

地方都市のまちなか再生プロジェクトを実体験して学ぶ。



▲学生の工事見学風景

▲よかこの家 (完成予想)

佐賀大学



ForS. (ふぉ～えす)
佐賀市富士町苜木 (ちやのき) の耕作放棄地を活用し、市民参加型の農業イベントの企画・実施を行い、山間地域の活性化を目指しています。

ForS. 報告書

「農」を知る
「農」を考える
「農」を身近に

～For student 学生のために
～For saga 佐賀のために
～Force 力 となる団体

農業の楽しさを知ってもらうため
市民参加型の農業イベント企画・実施・参加を行う。
Facebook URL: <https://www.facebook.com/for.saga.agri>

農学部 生物環境科学科 2年 藤原史歩
理工学部 機能物質科学科 2年 渡邊直平
理工学部 機能物質科学科 2年 結方康真

記録

西九州大学



必修科目一体験型学習 「あすなろう体験」
学生の問題解決能力やコミュニケーション能力の向上のため、ボランティアや地域活動などを行っています。

西九州大学 学生たちの取組 (平成23年度～)

★全学必修科目「あすなろう体験」での全県的的社会貢献活動★

「あすなろう」体験とは

- ・社会人に必要とされる問題解決、コミュニケーション、自己管理能力等の獲得を可能とする新しい教育プロセス
- ・専門分野にとらわれないボランティア・地域活動・インターンシップ・グループワークによる問題解決学習(PBL)等の体験型学習

「あすなろう」の特徴

- 1) 必修科目・・・履修して、合格点を得ないと卒業できない! (好き嫌いが言えない)
- 2) 体験活動にはミニマムの合格ポイント(11P)が設定されている(体験活動は避けられない)

活動ポイントの目安		学生によるポイント獲得の実際
終日活動	4P	・最低の11Pから中には100P超えの猛者まで
半日	2P	・学生一人当たり、平均 75回 体験活動に参加している
講座等	1P	

学内外体験活動実績 (全体)

- ・平成23年度活動人員 延 1725名
- ・平成24年度活動人員 延 2374名
- ・平成25年度活動人員 延 3288名 (1/22現在)

約 2/3 が学外での地域貢献型体験型活動
24年度 佐賀市での活動割合 4.6%
活動人数 およそ 1000人

佐賀市での活動例

- ・CSO共感フェスタでのボランティア(12/16)
- ・バラエティ・アート・フェスタさが2012(11/25)
- ・佐賀市人権ふれあい講演会運営補助(11/17)
- ・さが国際フェスタ2012運営補助(9/17)
- ・「九州ご当地グルメフェア」佐賀」運営スタッフ(6/2～6/3)

文部科学省 地(知)の拠点整備事業 佐賀大学・西九州大学
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
FD・SDフォーラム
～地域で学び、地域とともに成長する教育～

日 程:平成26年1月31日(金) 13:30～17:00

場 所:マリトピア(佐賀市新栄東3丁目7-8)

概 要:

佐賀大学と西九州大学による地(知)の拠点形成に向けた取り組みを推進するため、自治体やNPO、市民等と連携した、地域を志向する教育・研究の活性化と社会貢献あり方についてのフォーラムを開催し知見を深めた。このフォーラムは、佐賀大学・西九州大学のFD (Faculty Development) ・SD (Staff Development) 研修会を兼ねて実施し、約100名が参加した。

プログラム:

13:00～ 受付

13:30～ 開会挨拶 西九州大学 副学長 古川孝順

13:45～ 基調講演

テーマ「地域における実践型教育の展開－PBLとSLの融合－」
北九州市立大学地域創生学群学群長・教授 眞鍋和博氏

15:25～ パネルディスカッション

テーマ「地域連携による地域課題解決型の教育研究の活性化」
【オーガナイザー】

佐賀大学全学教育機構教授(副機構長) 諸泉俊介

佐賀大学全学教育機構講師(高等教育開発室) 山内一祥

【パネリスト】

西九州大学教授(学務部長/地域連携センター副センター長)

井本浩之

佐賀大学全学教育機構教授(産学・地域連携機構地域連携部門長)

五十嵐勉

佐賀大学産学・地域連携機構客員教授

(認定NPO法人地球市民の会事務局長) 大野博之 氏

佐賀市企画調整部総合政策課地域コミュニティ室室長 武富将志 氏

17:00 閉会



基調講演を行う北九州市立大学地域創生学群学群長の眞鍋和博教授



フォーラムには大学教職員や自治体関係者、学生が参加

基調講演

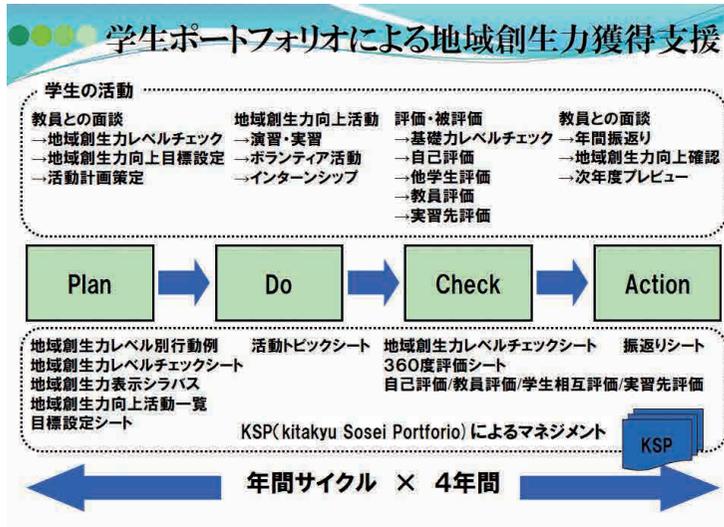
■地域における実践型教育の展開 –PBLとSLの融合–

北九州市立大学地域創生学群学群長 眞鍋和博教授

講演の内容

北九州市立大学の地域創生学群は平成21年に設置され、地域マネジメント・地域福祉コース・地域ボランティア養成の3コースからなり、地域での実践的な活動を重視した実習と演習を組み込んだ教育を実践している。「地域創生カーコミュニケーション力、チームワーク・リーダーシップ、課題発見力、計画遂行力、自己管理能力、市民力」を育む教育は、学

生ポートフォリオによる地域創生力獲得支援、数多くのプロジェクト解決型実習などによって実施されている。また、大学間連携協働教育推進事業としての「北九州まなびとESDステーション」では、市内10大学が連携したPBL教育に取り組み、学生の学びと成長を通して、地域の活性化に積極的に関わっていることなどが報告された。



地域創生学群における学生ポートフォリオによる地域創生力獲得支援

パネルディスカッション

■地域連携による地域課題解決型の教育研究の活性化

4人のパネリストの報告を受け、オーガナイザーの佐賀大学全学教育機構教授（副機構長）諸泉俊介と同講師（高等教育開発室）山内一祥とともに、学生が主体的に学ぶ仕組みづくりや地域と大学の協働体制の構築等について討議した。



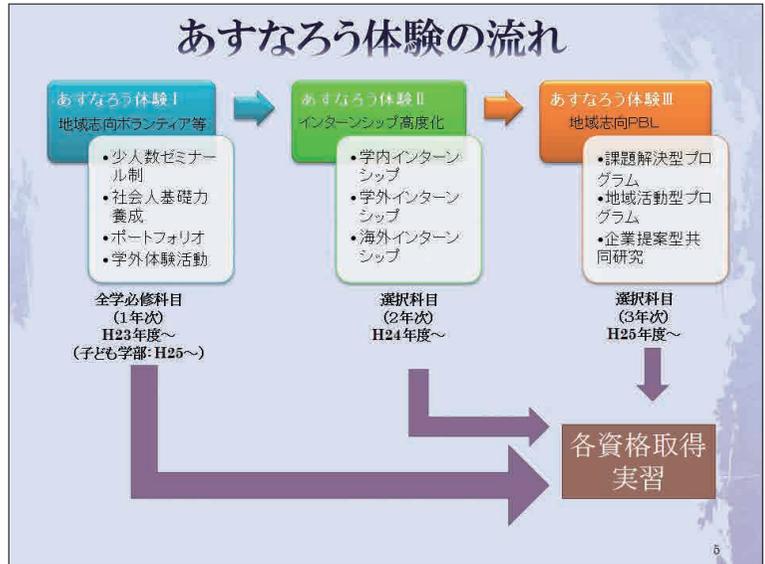
パネルディスカッションでは地域における教育・研究の活性化等について意見交換

■ パネラー報告

・井本浩之

西九州大学教授（学務部長／
地域連携センター副センター長）

西九州大学では「あすなろう体験」教育をベースにした教育改革を推進し、地域志向ボランティアからインターンシップ、そして地域志向PBLへ展開について報告があり、これらの活動実績を継承・発展させるコミュニティ・キャンパス佐賀の取り組みについて報告された。

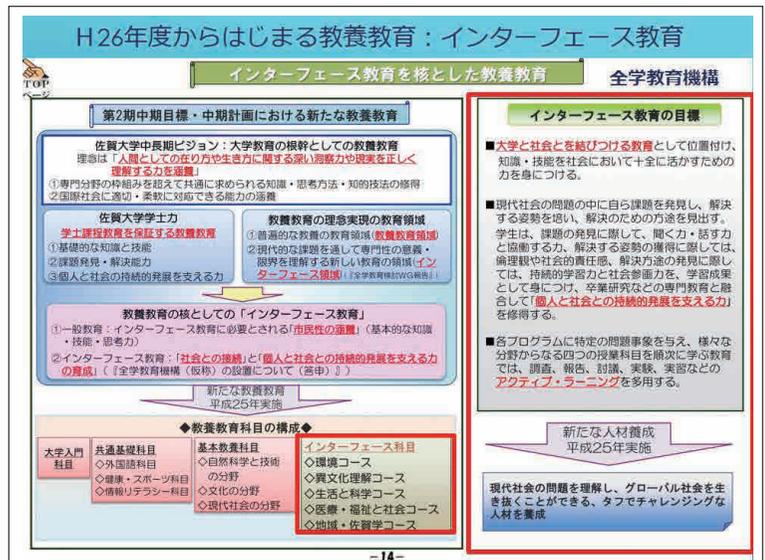


西九州大学における「あすなろう体験」

・五十嵐勉

佐賀大学全学教育機構教授
(産学・地域連携機構地域連携部門長)

佐賀大学では、平成26年度から始まるインターフェース教育の理念、カリキュラムの特色、PBLやSLを中心にしたアクティブラーニングの手法等について報告した。



佐賀大学における教養教育の改革—インターフェース教育—

・大野博之

佐賀大学産学・地域連携機構客員教授（認定NPO法人地球市民の会事務局長）

国際交流と地域の活性化に取り組む認定NPO法人地球市民の会では、プロジェクトベースで学生インターンを積極的に受け入れており、学生の学びと成長にかかわる現状と課題、そしてコミュニケーションへの期待が報告された。

プロジェクトベースのインターン受入れ

韓国の大学生と日本の大学生がともに佐賀市富士町の中山間地の集落に合宿し、未来のアジアに対する両国の貢献を語り合う「新カチガラス計画」

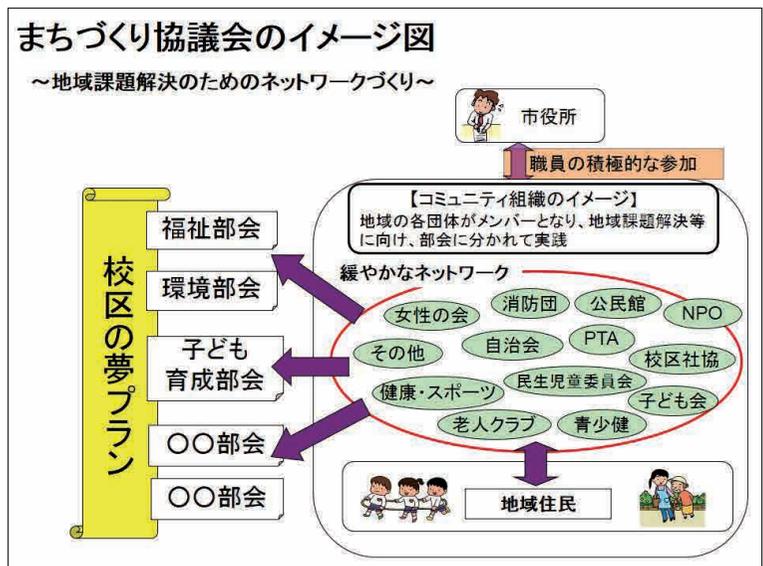


認定NPO法人地球市民の会による中山間地域活性化プロジェクトと学生インターン

・武富将志

佐賀市企画調整部総合政策課
地域コミュニティ室長

佐賀市は本学と西九州大との連携事業に積極的に取り組んでいる自治体で、これまでの両大学との連携実績の紹介と、現在、市が取り組んでいる地域コミュニティの活性化事業について、学生の参画を含むコミュニティの活性化事業についての期待が寄せられた。



佐賀市が進める地域コミュニティの活性化と学生参画への期待

■佐賀大学の「日本事情」を受講する留学生などが参加した学外授業を紹介。

2013/12/12佐賀新聞

座禅に悪戦苦闘

佐賀大の留学生が、同町の修学院で、座禅に悪戦苦闘した。留学生は、座禅の姿勢が、腰や膝に負担がかかることに驚きながらも、背筋を伸ばし目を閉じて約30分間、自分の心と向き合っていた。座禅に挑戦する留学生ら。吉野ヶ里町の修学院。



座禅に挑戦する留学生ら。吉野ヶ里町の修学院。

座禅に挑戦する留学生ら。吉野ヶ里町の修学院。

座禅に挑戦する留学生ら。吉野ヶ里町の修学院。

座禅に挑戦する留学生ら。吉野ヶ里町の修学院。

■佐賀市と小城市で行う「ユニバーサルデザインプロジェクト」の紹介。

2013/12/14朝日新聞

吉野ヶ里若い知恵を

公団側 佐賀女子短大の提案期待

佐賀女子短大は11月末、吉野ヶ里歴史公園（箱崎町）と学術協定を結んだ。具体的取り組みは今後、吉野ヶ里公園管理センターの公募で決まる。公団側は、介護福祉や保育士を目指す学生、高齢者や障害者、小児科や二児の養育費を軽減する取り組みを期待している。公団側は、高齢者や障害者、小児科や二児の養育費を軽減する取り組みを期待している。

自治体活性化に一役

佐賀大 西九州大 連携作りなど

佐賀大と西九州大は、佐賀市や小城市との連携を深め、NPOと連携する共同事業を計画し、国に採択され、5年間のプロジェクトを実施する。そのうち佐賀市と小城市が活用できる新たな施設をめぐっている。

佐賀大と西九州大は、佐賀市や小城市との連携を深め、NPOと連携する共同事業を計画し、国に採択され、5年間のプロジェクトを実施する。そのうち佐賀市と小城市が活用できる新たな施設をめぐっている。

佐賀大と西九州大は、佐賀市や小城市との連携を深め、NPOと連携する共同事業を計画し、国に採択され、5年間のプロジェクトを実施する。そのうち佐賀市と小城市が活用できる新たな施設をめぐっている。

佐賀大と西九州大は、佐賀市や小城市との連携を深め、NPOと連携する共同事業を計画し、国に採択され、5年間のプロジェクトを実施する。そのうち佐賀市と小城市が活用できる新たな施設をめぐっている。

広報関係

ホームページ・リーフレット・Facebook (フェイスブック) による広報活動

地(知)の拠点整備事業 コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト ホームページの運営

佐賀大学と西九州大学のコミュニティ・キャンパス佐賀の全12プロジェクトを、わかりやすく掲載したホームページを運営しています。県内全域でどのようなプロジェクトが行われているか、学生はもちろん地域の方にも見ていただけるようにしました。

Facebook (フェイスブック) とも連動させ、各プロジェクトの活動をすばやく情報発信、共有できるサイトです。

リーフレットの作成と配布

コミュニティ・キャンパス佐賀の概要や各プロジェクトを紹介するリーフレットを作成し配布しました。

キャンパス位置付けた佐賀県地図を前面に出し、プロジェクト実施地域と内容が一目でわかります。



地(知)の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
ホームページ (<http://www.ccsap.saga-u.ac.jp/>)



コミュニティ・キャンパス佐賀リーフレット



リーフレットー佐賀大学版一

Facebookページの開設

コミュニティ・キャンパス佐賀の全12事業の情報発信を行うFacebookページを開設しました。佐賀大学と西九州大学で連携して事業を進めるためにも、地域での活動を行う学生自らの情報発信ツールとしても活用できます。

ページを活用することで、多くの方がこの事業を知るきっかけとして、また、事業に関わる地域の方や学生、自治体関係者、NPO団体などとのコミュニティづくりにつながります。



地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト
Facebook (<https://www.facebook.com/coc.saga>)

広報関係



学生の活動をリアルタイムで紹介



事業の運営会議などの様子も発信

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト 運営委員会設置要項

(平成25年9月26日制定)

(設置)

第1 国立大学法人佐賀大学及び学校法人西九州大学に、地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト)の実施に関し、必要な事項を審議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

(審議事項)

第2 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) プロジェクト実施に関する企画の立案及び推進に関すること。
- (2) プロジェクトの予算管理に関すること。
- (3) 自治体等との連携の推進に関すること。
- (4) プロジェクトの自己点検評価に関すること。
- (5) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学理事のうち佐賀大学長が指名した者 1人
- (2) 西九州大学理事のうち西九州大学長が指名した者 1人
- (3) 佐賀大学における事業実施責任者
- (4) 西九州大学における事業実施責任者
- (5) 佐賀大学におけるプロジェクト実施責任者
- (6) 西九州大学におけるプロジェクト実施責任者
- (7) 佐賀大学全学教育機構専任教員のうち佐賀大学長が指名した者 若干人
- (8) 西九州大学グループ地域連携センター教員のうち西九州大学長が指名した者 若干人
- (9) コミュニティ・キャンパス佐賀コーディネーター
- (10) その他第5第1号に規定する委員長が指名した者 若干人

(任期)

第4 第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 第3第5号から第8号まで及び第10号の委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 運営委員会に委員長を置き、第3第1号の委員をもって充て、副委員長は第3第3号及び第4号の委員をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代行する。

(議事)

第6 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

ただし、やむを得ない理由により出席ができない場合にあっては、代理者の出席を認め、その者を委員に代えることができる。

- 2 議事は、出席した委員の3分の2以上の多数をもって議決する。

(委員以外の者の出席)

第7 運営委員会が必要と認めるときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会)

第8 運営委員会に必要な部会を置くことができる。

- 2 部会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第9 運営委員会の事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部研究協力課が行う。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成25年10月1日から実施する。
- 2 この要項実施後、最初に選出される第3第5号から第8号まで及び第10号の委員の任期は、第4第1項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

■コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト運営委員会

<佐賀大学>

平成25年12月1日

部 局	職 名	氏 名
理事（研究・国際・社会貢献担当）	副学長	中 島 晃
全学教育機構	教授	* 五十嵐 勉
文化教育学部	教授	* 井 上 伸 一
経済学部	教授	富 田 義 典
医学部	教授	杉 岡 隆
工学系研究科	教授	三 島 伸 雄
（農）附属アグリ創生教育研究センター	副センター長	上 埜 喜 八
全学教育機構	准教授	郡 山 益 実
全学教育機構	教授	諸 泉 俊 介
全学教育機構	講師	* 山 内 一 祥
研究協力課	コーディネーター	三 島 舞

<西九州大学>

部 局	職 名	氏 名
理事（研究・社会貢献・大学改革担当）	副学長	古 川 孝 順
学務部	部長	* 井 本 浩 之
健康福祉学部	教授	柳 田 晃 良
健康福祉学部	教授	酒 井 出
健康福祉学部	教授	安 田 みどり
リハビリテーション学部	准教授	* 上 城 憲 司
健康福祉学部	講師	* 岡 部 由紀夫
地域連携センター	コーディネーター	土 橋 真奈美

*は企画部会の構成員である。

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議設置要項

(平成25年11月15日制定)

(設置)

第1 地(知)の拠点整備事業(事業名称:コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト)の実施に関し、必要な事項を協議するため、コミュニティ・キャンパス佐賀推進会議(以下「推進会議」という。)を置く。

(協議事項)

第2 推進会議は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 地域のニーズに対応した教育研究の推進に関する事。
- (2) 地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関する事。
- (3) その他プロジェクトの実施に関する事項

(組織)

第3 推進会議は、次に掲げる機関の担当者をもって構成する。

- (1) 佐賀県
- (2) 佐賀市
- (3) 神崎市
- (4) 唐津市
- (5) 小城市
- (6) 鹿島市
- (7) 嬉野市
- (8) 吉野ヶ里町
- (9) 佐賀大学
- (10) 西九州大学
- (11) その他第4第1項に規定する会長が指名した者 若干人

(会長)

第4 推進会議に会長を置き、構成員の互選により選出する。

- 2 会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 会長は、推進会議を招集し、その議長となる。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名した構成員がその職務を代行する。

(構成員以外の者の出席)

第5 推進会議は、必要に応じ構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6 推進会議に関する事務は、佐賀大学事務局関係各課及び西九州大学グループ地域連携センターの協力を得て、佐賀大学学術研究協力部研究協力課が行う。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、推進会議が別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成25年11月15日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、現に会長の職にある者の任期は、第4第2項の規定にかかわらず、平成27年3月31日までとする。

■コミュニティ・キャンパス佐賀 推進会議名簿

平成25年11月15日

所 属	職 名	氏 名
佐賀県	政策監G	中 島 健 二
佐賀市	企画調整部 総合政策課	西 洋 徳
神崎市	総務企画部 市長公室	平 山 幸 二
唐津市	企画政策課交流協定担当者	牛 草 和 人
小城市	企画課	熊 谷 郁 子
鹿島市	総務部 企画財政課	木 原 智 典
嬉野市	企画部 企画企業誘致課	山 口 純 一
吉野ヶ里町	企画課課長	直 塚 政 浩
佐賀大学	全学教育機構教授	五十嵐 勉
西九州大学	学務部 部長	井 本 浩 之

＜関係者＞

佐賀大学	コーディネーター	三 島 舞
西九州大学	コーディネーター	土 橋 真奈美
佐賀大学	教務課長	小 田 正 俊
佐賀大学	研究協力課長	弓 削 純 一
西九州大学	総務課長	山 中 健 正
佐賀大学	研究協力課副課長	秋 山 博 志
佐賀大学	研究協力課係長	松 尾 和 俊
佐賀大学	研究協力課係長	北 島 秀 俊

編集後記

地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀
アクティベーション・プロジェクト

コーディネーター **三島 舞**



平成25年度10月から始まったコミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト。報告書作成の過程で約半年の成果を振り返ると、多くの出来事があり、たくさんの方々とお会いしました。

改めて感じたのは、学生パワーの素晴らしさ。地域活動を行う学生の行動力や課題解決に真摯に向き合う姿はとてもたくましく感じます。また、イマドキの学生のプレゼン能力の高さやICT活用能力の高さには驚きました。パタパタと報告書を作成しながら、来年度の報告書はそんな学生たちと一緒に作成したいと考えています。

平成25年度
地（知）の拠点整備事業
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト

成果報告書

平成26年3月31日発行

発行 国立大学法人 佐賀大学
学術研究協力部研究協力課
〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1番地
TEL:0952-28-8958
FAX:0952-28-8186
<http://www.ccsap.saga-u.ac.jp>
企画・編集 コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト推進室
デザイン・印刷 福博印刷株式会社

本書に掲載されている写真及び記事の無断転載、複写・複写を禁止します。